

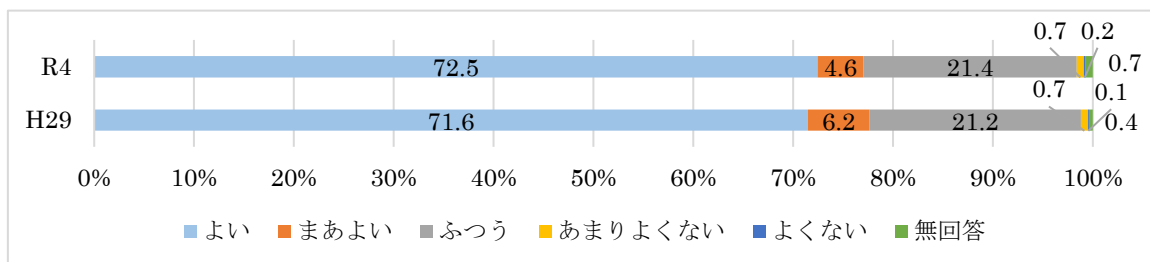
# 第6章 健康と医療サービス

## 1. 子どもの健康状態

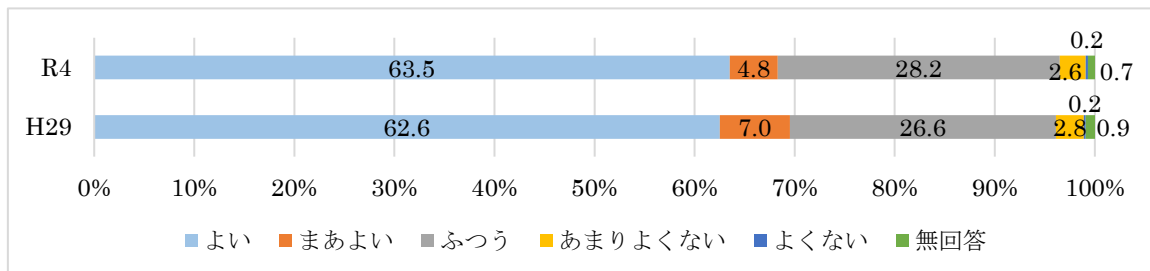
本節においては、保護者票の問 12「あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。」のうち、問12-2「お子さん」の健康状態についての回答を見ていく。設問は、「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「よくない」の 5 段階で回答の選択肢を設けている。結果は以下の通りである。

小学 5 年生の 72.5%、中学 2 年生の 63.5%の保護者が、子どもの健康状態を「よい」としている。しかしながら、小学 5 年生の 0.9%、中学 2 年生の 2.8%の保護者が、子どもの健康状態を「あまりよくない」「よくない」と回答している。前回調査(H29)では、小学 5 年生の 71.6%、中学 2 年生の 62.6%の保護者が、子どもの健康状態を「よい」と回答し、小学 5 年生の 0.8%、中学 2 年生の 3.0%の保護者が、子どもの健康状態を「あまりよくない」「よくない」と回答していた。

図表 6-1-1 子どもの健康状態(小学 5 年生):全体



図表 6-1-2 子どもの健康状態(中学 2 年生):全体



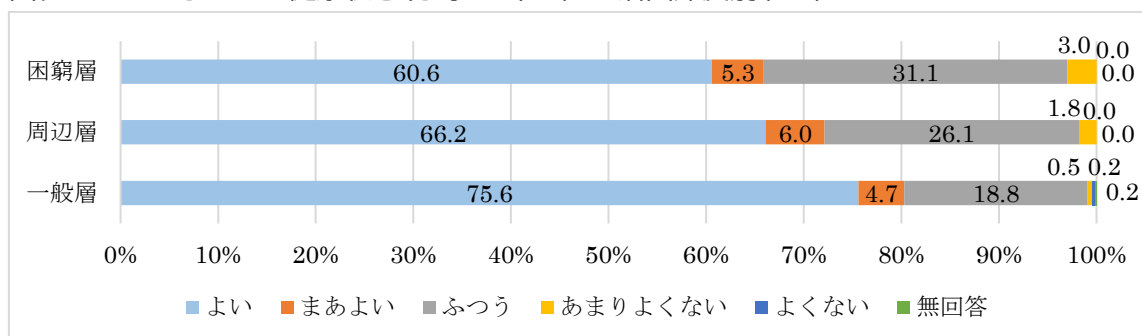
生活困難度別に子どもの健康状態を見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。

小学 5 年生では、子どもの健康状態を「よい」とした保護者は、生活困難度が高いほど割合が低く、一般層が 75.6%、周辺層が 66.2%、困窮層では 60.6%となっている。一方で、「あまりよくない」と答えた保護者は、生活困難度が高いほど割合が高く、一般層が 0.5%、周辺層が 1.8%、困窮層が 3.0%である。

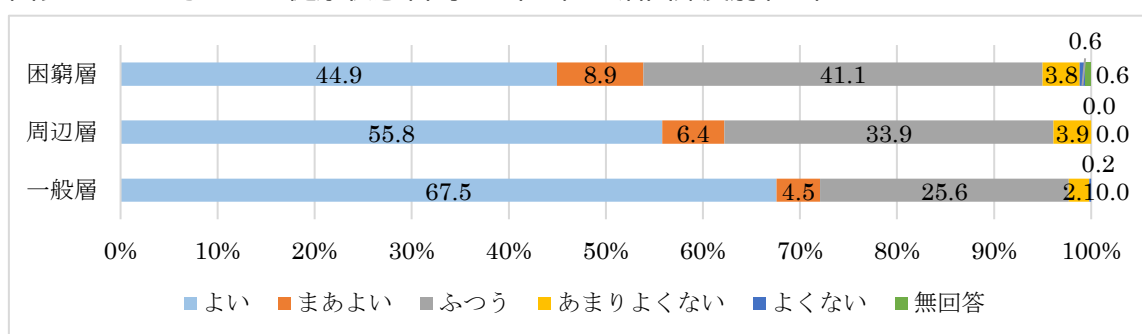
中学 2 年生でも同様に、子どもの健康状態を「よい」とした保護者は、生活困難度が高いほ

ど割合が低く、一般層が 67.5%、周辺層が 55.8%、困窮層が 44.9%であった。また、「あまりよくない」と答えた保護者は、一般層に比べ生活困難層の割合が高く、一般層が 2.1%、周辺層が 3.9%、困窮層が 3.8%であった。

図表 6-1-3 子どもの健康状態(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



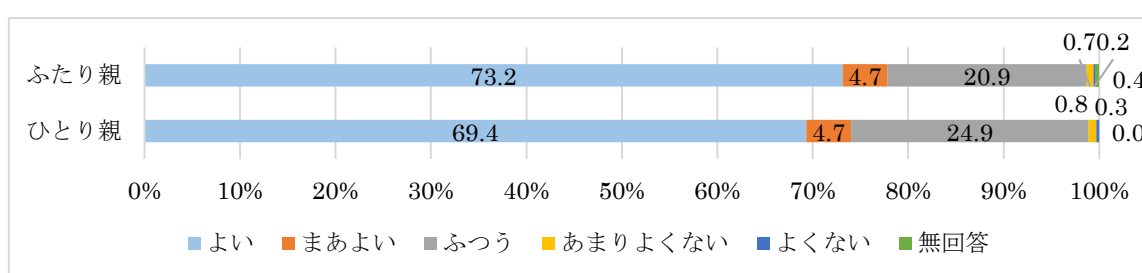
図表 6-1-4 子どもの健康状態(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



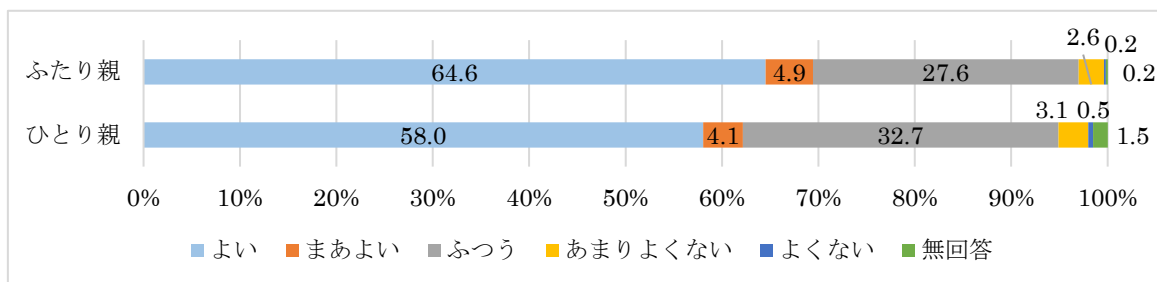
次に、世帯タイプ別に子どもの健康状態を見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。

小学 5 年生では、子どもの健康状態を「よい」とした保護者は、ひとり親世帯では 69.4%となっており、ふたり親世帯の 73.2%と比べて、ひとり親世帯のほうが 3.8 ポイント低くなっている。中学 2 年生では、子どもの健康状態を「よい」とした保護者は、ひとり親世帯では 58.0%となっており、ふたり親世帯の 64.6%と比べて、ひとり親世帯のほうが 6.6 ポイント低くなっている。

図表 6-1-5 子どもの健康状態(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-1-6 子どもの健康状態(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



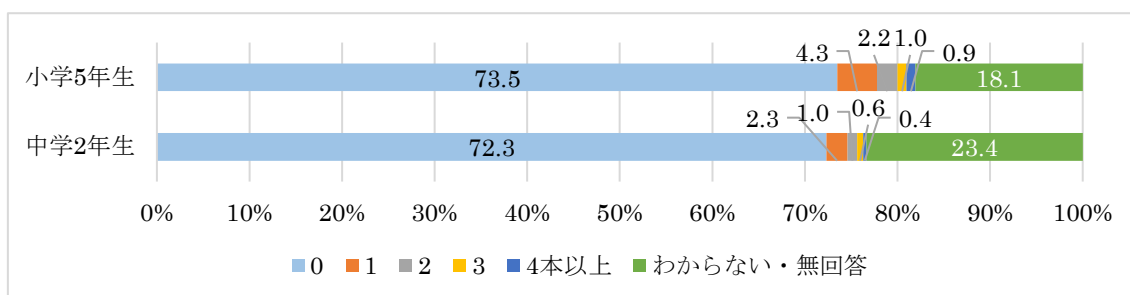
## 2. 子どもの虫歯

ここでは、子どもの虫歯の本数(治療中のものも含む)を見ていくこととする。保護者票問14「お子さんは、今、虫歯が何本くらいありますか。治療中のものも含みます。」の回答を集計した。ただし、ここでの虫歯の本数は、保護者による申告であるため、歯科医の診断によるものではない。

小学 5 年生では、虫歯は「0 本」と答えたのは 73.5%である。一方で、「1 本」と答えたのが 4.3%、「2 本」が 2.2%、「3 本」が 1.0%、「4 本以上」が 0.9%であり、これらを合わせると、小学 5 年生の 8.4%の子どもの虫歯があるという結果になる(ただし、無回答の 18.1%を除くと、虫歯がある子どもは 10.3%)。

中学 2 年生では、虫歯は「0 本」は 72.3%である。一方で、「1 本」が 2.3%、「2 本」が 1.0%、「3 本」が 0.6%、「4 本以上」が 0.4%であり、これらを合わせると、中学 2 年生の 4.3%の子どもの虫歯があるという結果になる(ただし、無回答の 23.4%を除くと、虫歯がある子どもは 15.4%)。

図表 6-2-1 虫歯の本数(小学 5 年生・中学 2 年生):全体

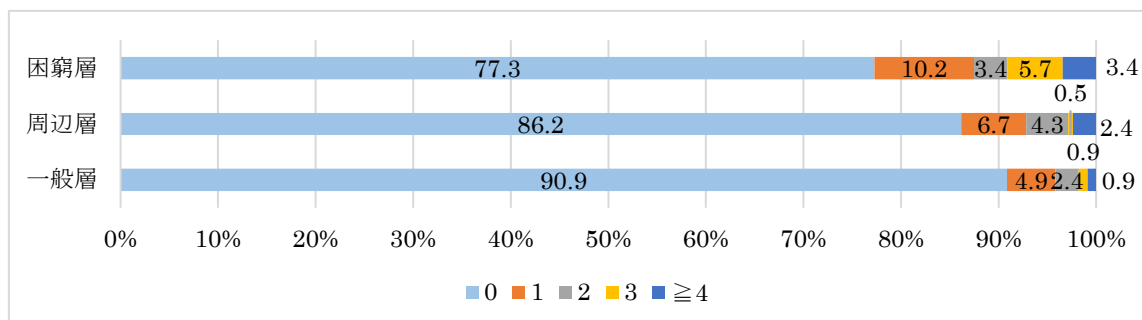


次に、虫歯の本数を生活困難度別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。

小学 5 年生では、虫歯が「0 本」の子どもの割合は、一般層では 90.9%となっており、困窮層の 77.3%、周辺層の 86.2%と比べて、それぞれ 13.6 ポイント、4.2 ポイント高くなっている。虫歯が「4 本以上」ある子どもにおいては、一般層で 0.9%、周辺層で 2.4%、困窮層で 3.4%であり、困窮層でもっとも高くなっている。

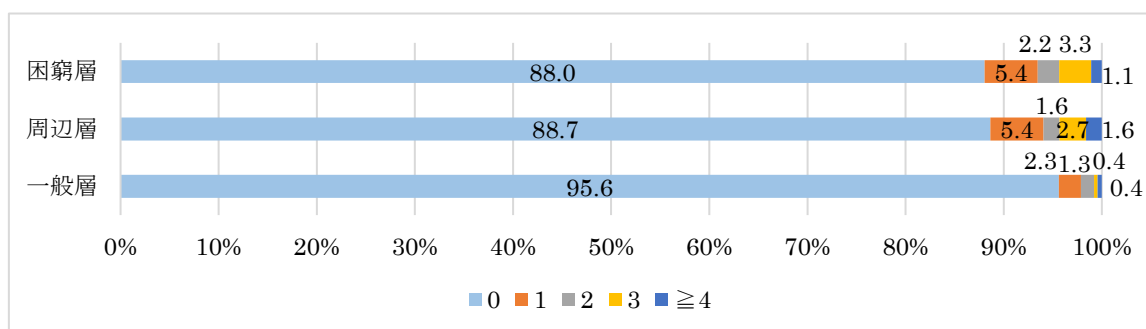
中学 2 年生では、虫歯が「0 本」の子どもの割合は、一般層では 95.6%となっており、困窮層の 88.0%、周辺層の 88.7%と比べて、それぞれ 7.6 ポイント、6.9 ポイント高くなっている。

図表 6-2-3 虫歯の本数(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



※「わからない」と無回答については除外したうえで検定を行った。なお、除外処理前の「わからない」は困窮層から順に 32.6%、24.3%、14.6%であった。

図表 6-2-4 虫歯の本数(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



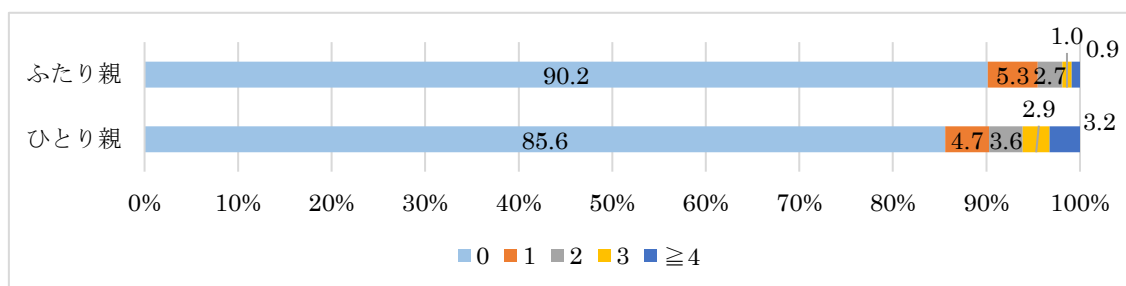
※「わからない」と無回答については除外したうえで検定を行った。なお、除外処理前の「わからない」は困窮層から順に 41.1%、34.3%、18.7%であった。

世帯タイプ別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。

小学 5 年生では、虫歯が「0 本」の子どもの割合は、ふたり親世帯では 90.2%となっており、ひとり親世帯の 85.6%と比べて、ふたり親世帯のほうが 4.6 ポイント高い。虫歯が「4 本以上」ある子どもにおいては、ふたり親世帯では 0.9%、ひとり親世帯では 3.2%であり、ひとり親世帯のほうが 2.3 ポイント高くなっている。

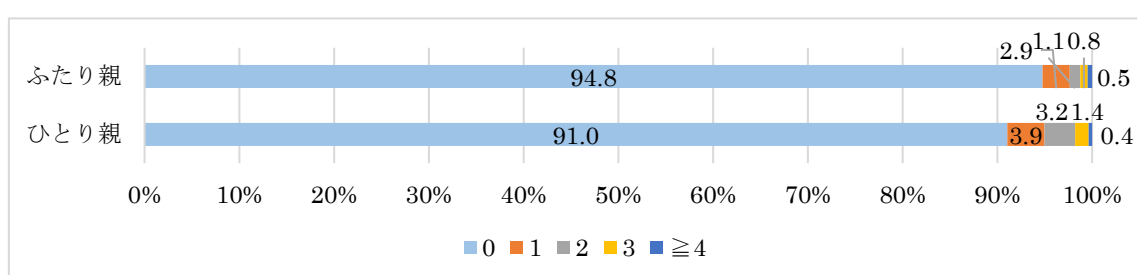
中学 2 年生では、虫歯が「0 本」の子どもの割合は、ふたり親世帯では 94.8%となっており、ひとり親世帯の 91.0%と比べて、ふたり親世帯のほうが 3.8 ポイント高い。

図表 6-2-5 虫歯の本数(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



※「わからない」と無回答については除外したうえで検定を行った。なお、除外処理前の「わからない」はふたり親 15.8%、ひとり親が 25.9%であった。

図表 6-2-6 虫歯の本数(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



※「わからない」と無回答については除外したうえで検定を行った。なお、除外処理前の「わからない」はふたり親が 21.7%、ひとり親が 25.8%であった。

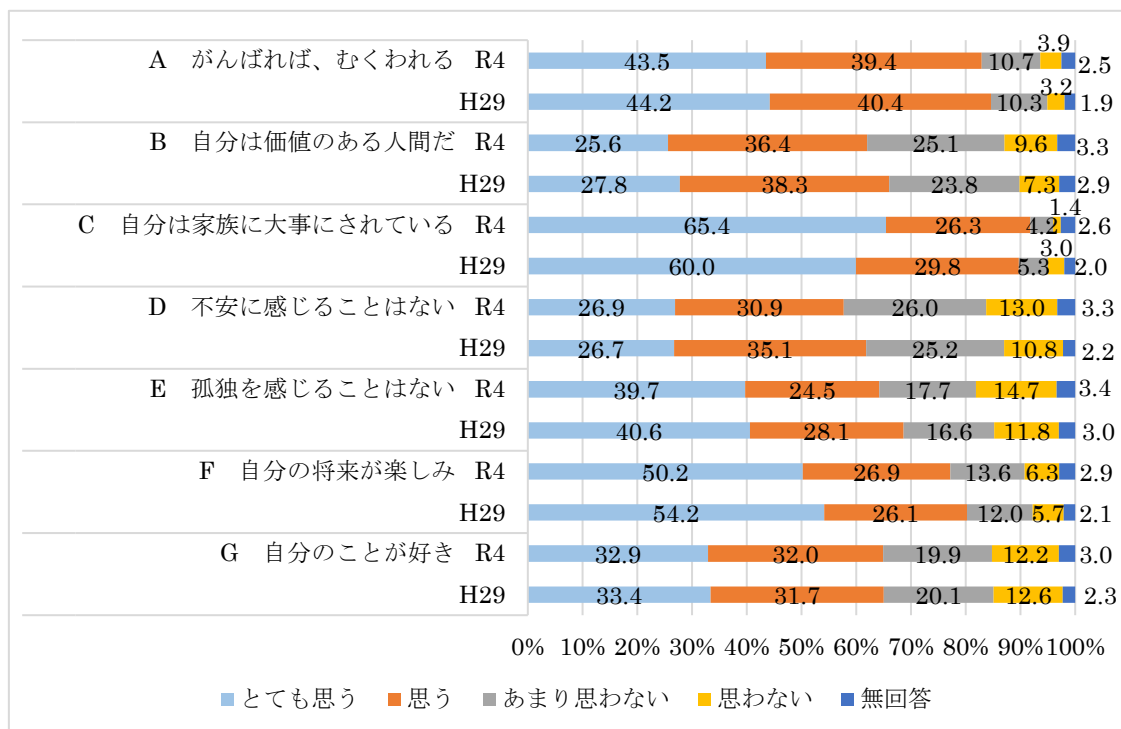
### 3. 自己肯定感

本節においては、子どもの自己肯定感に着目して集計を行う。本調査では、子ども票問 30 において、「あなたの思いや気持ちについて、『1 とても思う』から『4 思わない』のもっとも近いものに○をつけてください。」との問いを、以下、A から G までの 7 つの設問について聞いている。集計結果は以下のとおりである。

- A「がんばれば、むくわれる」
- B「自分は価値のある人間だ」
- C「自分は家族に大事にされている」
- D「不安に感じることはない」
- E「孤独を感じることはない」
- F「自分の将来が楽しみ」
- G「自分のことが好き」

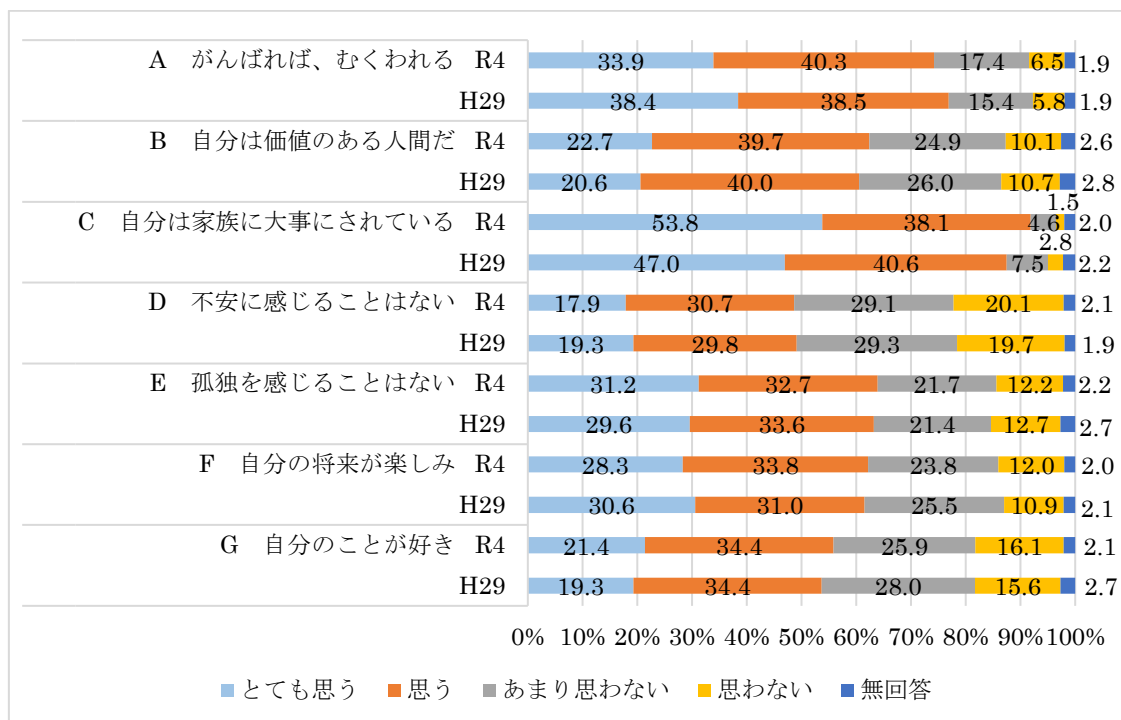
小学 5 年生については、ほとんどの項目において過半数の子どもは「とても思う」「思う」と肯定的な回答をしており、この割合は前回調査と比べても大きな違いはない。一方で、「思わない」といった否定的な回答をする子どもも依然として存在しており、その割合は最も多いものでは、「孤独を感じることはない」で 14.7%、次に多いのが「不安に感じることはない」で 13.0%であった。これらの割合は、前回調査よりも若干多い。

図表 6-3-1 あなたの思いや、気持ちについて（小学 5 年生）:全体



中学 2 年生についても、ほとんどの項目において過半数の子どもは「とても思う」「思う」と肯定的な回答をしており、この割合は前回調査と比べても大きな違いはない。一方で、「思わない」といった否定的な回答をする子どもも依然として存在しており、その割合は最も多いものでは、「不安に感じることはない」で 20.1%、次に多いのが「自分のことが好き」で 16.1%であった。これらの割合は、前回調査よりも若干多い。

図表 6-3-2 あなたの思いや、気持ちについて(中学 2 年生):全体

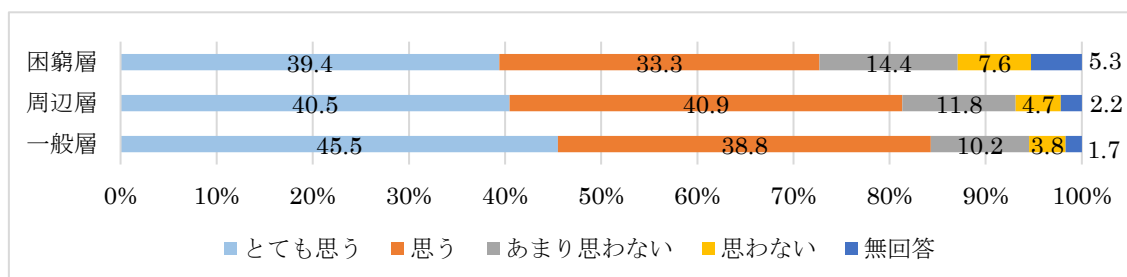


次に、生活困難度別、世帯タイプ別にそれぞれの設問についての回答傾向をみたところ、以下の傾向がみられた。生活困難度別、世帯タイプ別の差が検証されなかった項目については、図表および記述を省略している(数値については巻末資料を参照のこと)。

(1)「がんばれば、むくわれる」

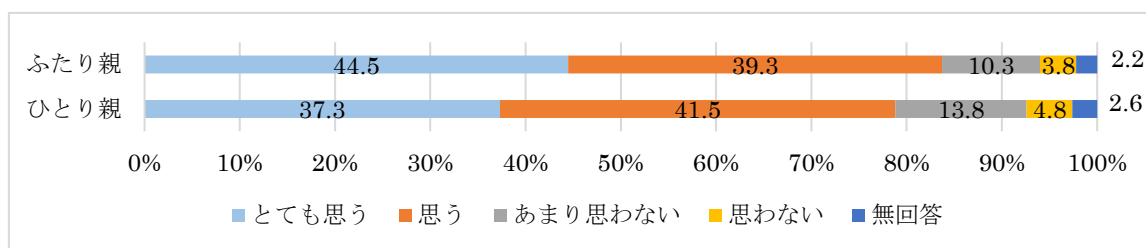
生活困難度別において、小学 5 年生では統計的に有意な差が見られた。生活困難度別では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは困窮層では 22.0%、周辺層では 16.5%、一般層では 14.0%となっており、困窮層でもっとも高くなっている。中学 2 年生では、生活困難度別において統計的に有意な差は見られなかった。

図表 6-3-3 「がんばれば、むくわれる」について(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*)

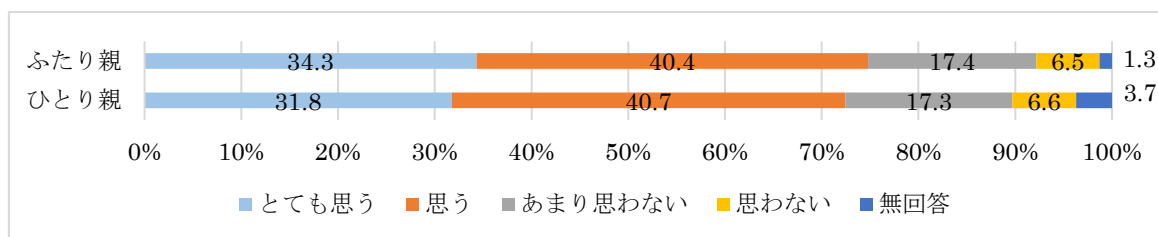


世帯タイプ別では、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 14.1%、ひとり親世帯では 18.6%であり、ひとり親世帯のほうが 4.5 ポイント高い。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 23.9%、ひとり親世帯では 23.9%であった。

図表 6-3-4 「がんばれば、むくわれる」について(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*)



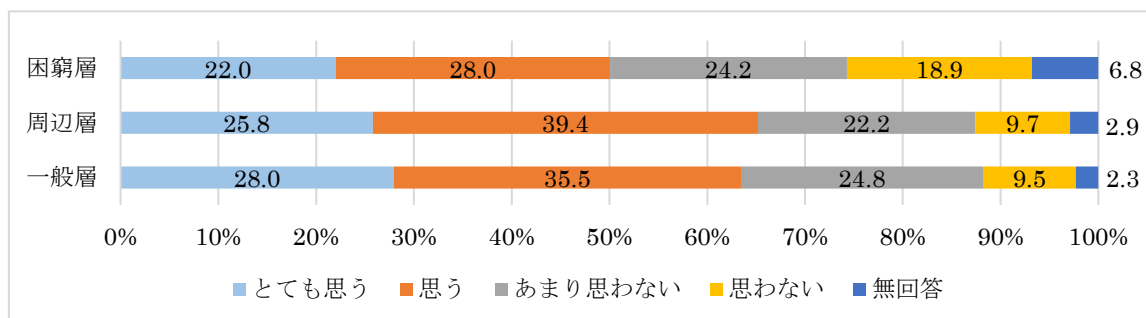
図表 6-3-5 「がんばれば、むくわれる」について(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*)



## (2)「自分は価値のある人間だ」

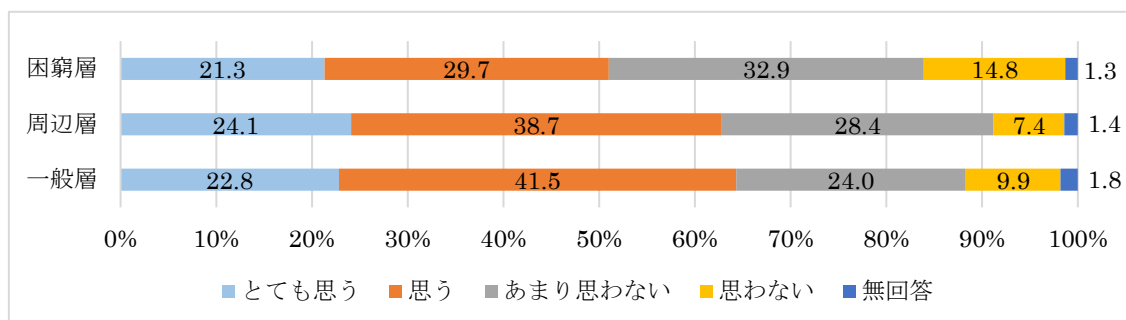
生活困難度別に見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは困窮層では 43.1%、周辺層では 31.9%、一般層では 34.3%となっており、困窮層は一般層と比べて 8.8 ポイント高くなっている。しかし、一般層でも 3 割以上が、否定的な回答をしている。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは困窮層で 47.7%、周辺層で 35.8%、一般層で 33.9%となっており、困窮層は一般層と比べて 13.8 ポイント高くなっている。小学 5 年生と同様に、中学 2 年生の一般層でも、3 割以上が否定的な回答をしている。

図表 6-3-6 「自分は価値のある人間だ」について(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



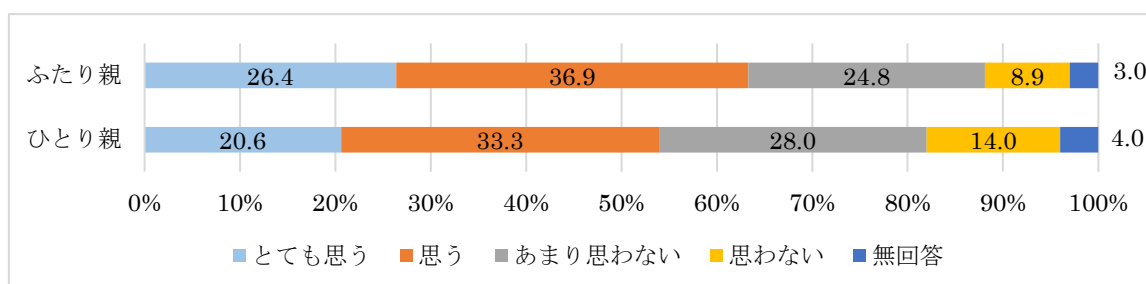


図表 6-3-7 「自分は価値のある人間だ」について(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)

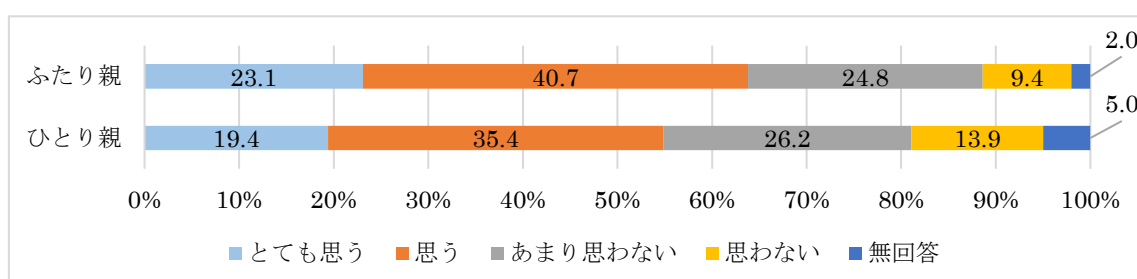


世帯タイプ別に見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 33.7%、ひとり親世帯では 42.0%となっており、ひとり親世帯のほうが 8.3 ポイント高い。ふたり親世帯では 3 割以上、ひとり親世帯では 4 割以上の子どもが否定的な回答をしている。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 34.2%、ひとり親世帯では 40.1%となっており、ひとり親世帯のほうが 5.9 ポイント高くなっている。小学 5 年生同様に、ふたり親世帯でも 3 割以上、ひとり親世帯でも 4 割以上の子どもが否定的な回答をしている。

図表 6-3-8 「自分は価値のある人間だ」について(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-3-9 「自分は価値のある人間だ」について(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

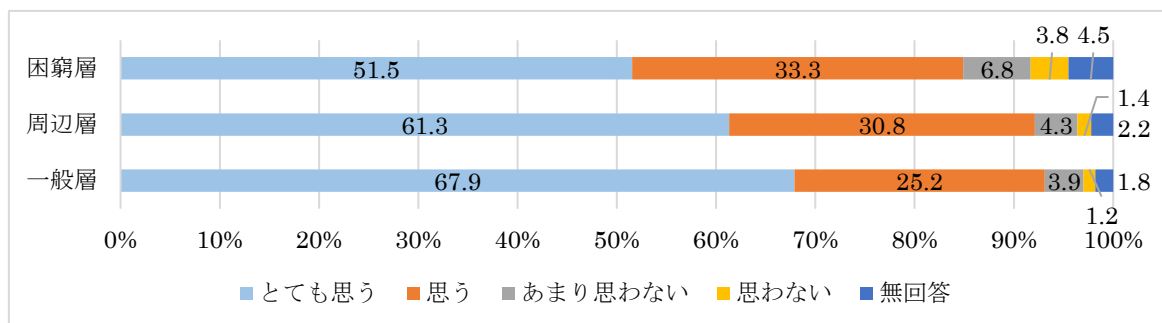


### (3)「自分は家族に大事にされている」

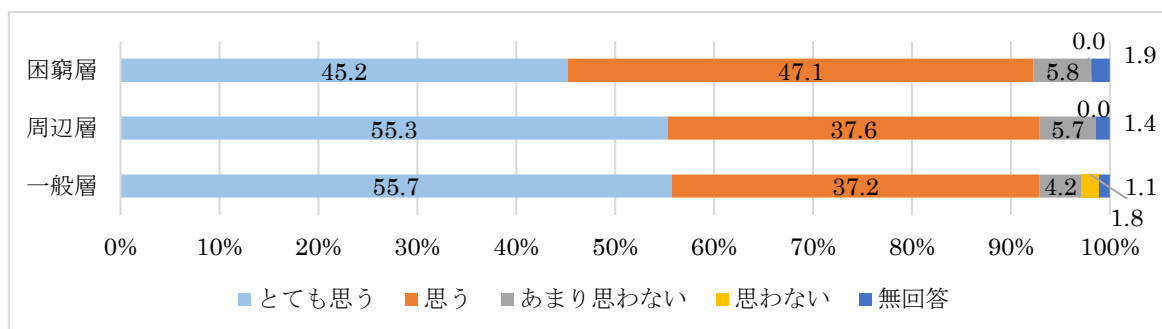
生活困難度別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層で

10.6%、周辺層で 5.7%、一般層では 5.1%となっており、困窮層は一般層と比べて 5.5 ポイント高くなっている。「とても思う」「思う」を合わせた割合も一般層が最も高い。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層で 5.8%、周辺層で 5.7%、一般層で 6.0%となっており、ほぼ変わらないものの、「とても思う」の割合は困窮層では 45.2%、周辺層で 55.3%、一般層で 55.7%と、困窮層にて低くなっている。

図表 6-3-10 「自分は家族に大事にされている」について(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)

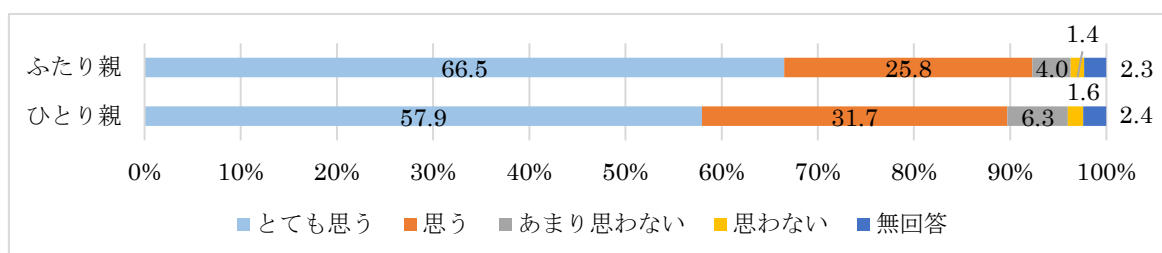


図表 6-3-11 「自分は家族に大事にされている」について(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)

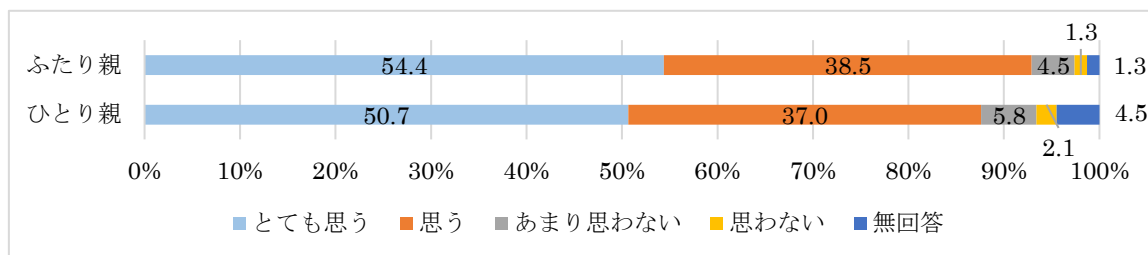


世帯タイプ別においては、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 5.4%、ひとり親世帯では 7.9%となっており、ひとり親世帯のほうが 2.5 ポイント高い。しかし、「とても思う」の割合は、ふたり親世帯とひとり親世帯には 8.6 ポイントの違いがある。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 5.8%、ひとり親世帯では 7.9%となっており、ひとり親世帯のほうが 2.1 ポイント高くなっている。

図表 6-3-12 「自分は家族に大事にされている」について(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*)



図表 6-3-13 「自分は家族に大事にされている」について(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

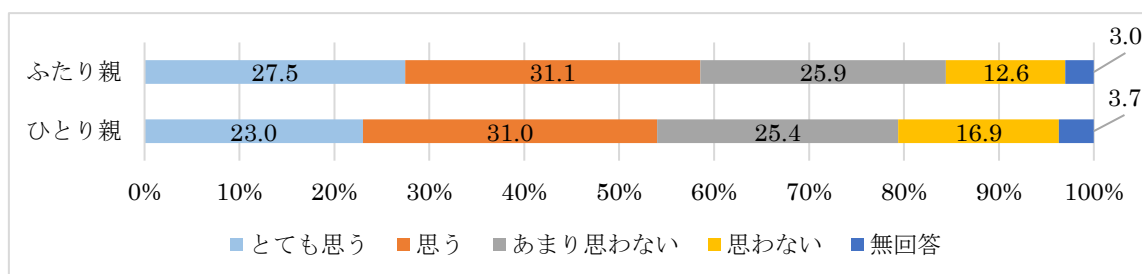


#### (4)「不安に感じることはない」

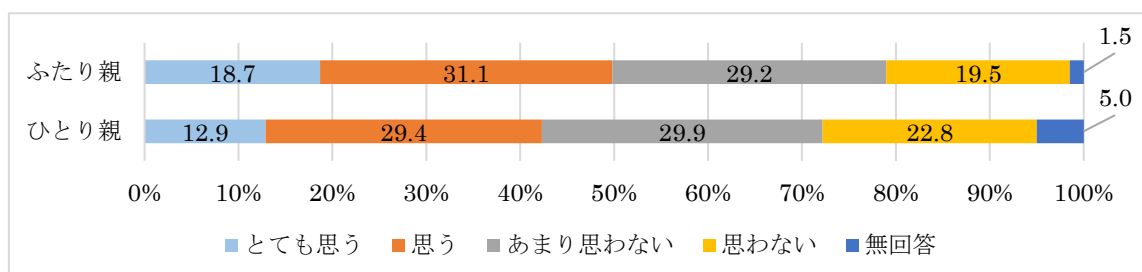
生活困難度別においては、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差は見られなかった。

世帯タイプ別においては、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 38.5%、ひとり親世帯では 42.3%となっており、ひとり親世帯のほうが 3.8 ポイント高くなっている。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 48.7%、ひとり親世帯では 52.7%となっており、ひとり親世帯のほうが 4.0 ポイント高くなっている。中学 2 年生では、ひとり親世帯の 5 割以上が否定的な回答をしている。

図表 6-3-14 「不安に感じることはない」について(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*)



図表 6-3-15 「不安に感じることはない」について(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



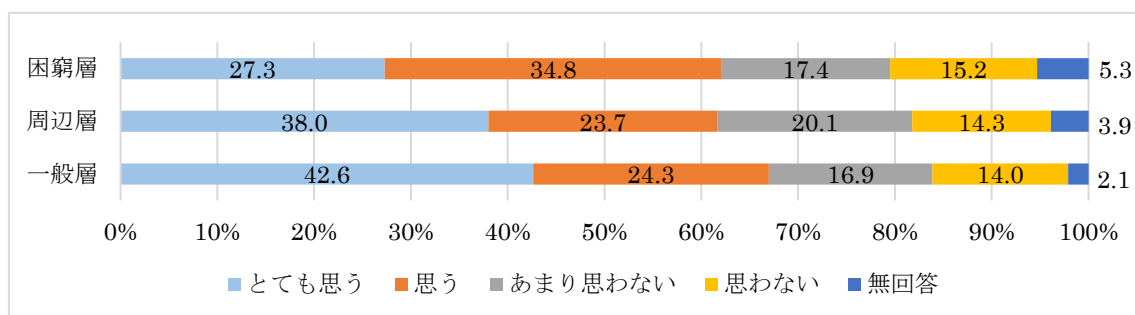
#### (5)「孤独を感じることはない」

小学 5 年生では、生活困難度別において統計的に有意な差が見られた。「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層では 32.6%、周辺層では 34.4%、一般層では

30.9%となっており、一般層と比べて困窮層、周辺層は高い割合となっている。また、「とても思う」の割合は、困窮層では 27.3%、周辺層では 38.0%、一般層では 42.6%と、一般層の方が高い。

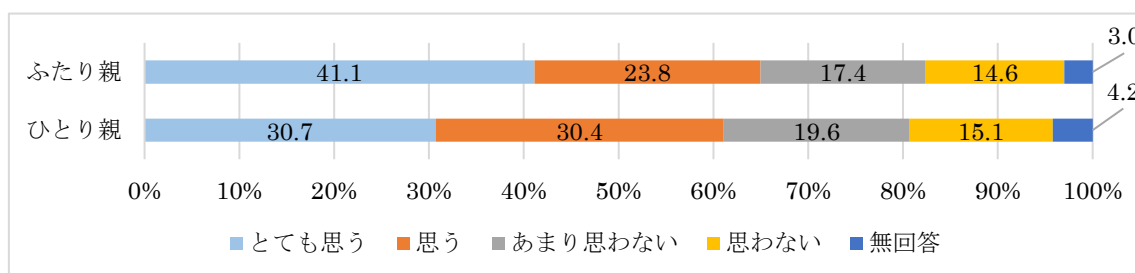
中学 2 年生では、生活困難度別において統計的に有意な差は見られなかった。

図表 6-3-16 「孤独を感じることはない」について(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)

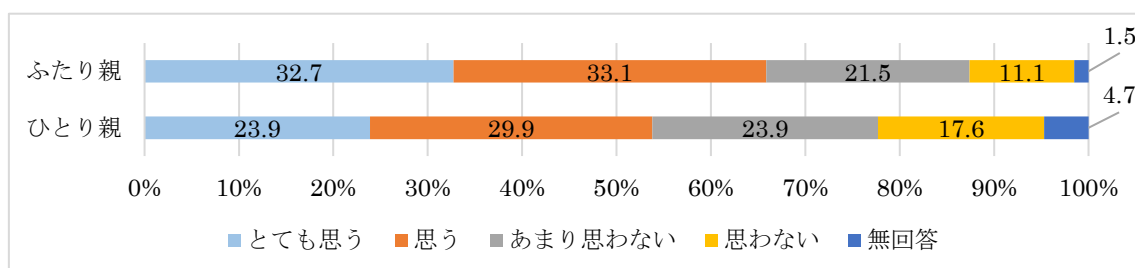


世帯タイプ別においては、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 32.0%、ひとり親世帯では 34.7%となっており、ひとり親世帯のほうが 2.7 ポイント高くなっている。また、「とても思う」の割合は、ふたり親世帯では 41.1%、ひとり親世帯では 30.7%と、ふたり親世帯の方が 10.4 ポイント高い。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 32.6%、ひとり親世帯では 41.5%となっており、ひとり親世帯のほうが 8.9 ポイント高くなっている。「とても思う」の割合は、ふたり親世帯の方が、ひとり親世帯に比べ 8.8 ポイント高くなっている。

図表 6-3-17 「孤独を感じることはない」について(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



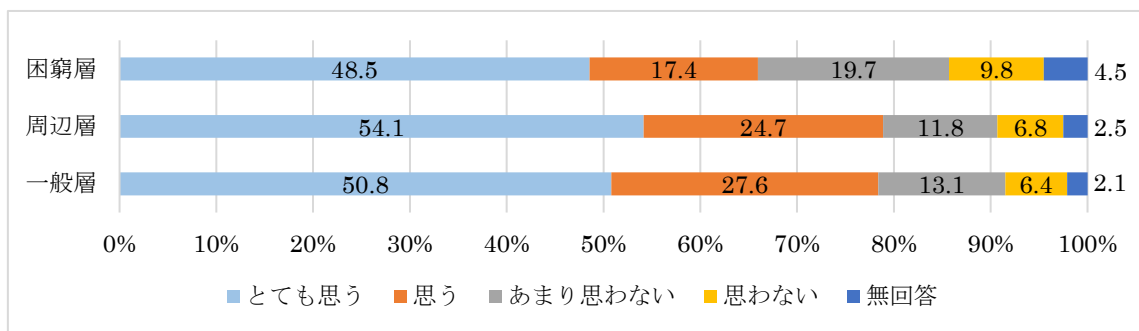
図表 6-3-18 「孤独を感じることはない」について(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



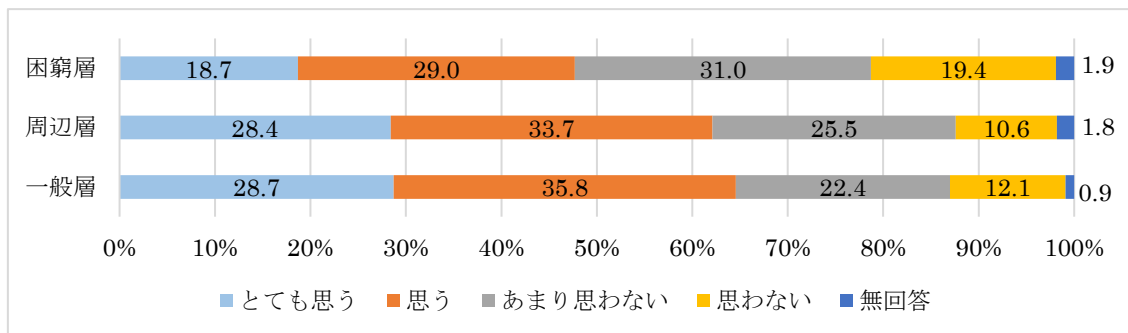
## (6)「自分の将来が楽しみ」

生活困難度別において、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層で 29.5%、周辺層で 18.6%、一般層で 19.5%となっており、困窮層は一般層に比べて 10.0 ポイント高くなっている。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層で 50.4%、周辺層で 36.1%、一般層で 34.5%となっており、困窮層では 5 割以上が自分の将来を楽しみに思っていない。また、周辺層、一般層においても、3 分の 1 以上の子どもが自分の将来を楽しみに思っていない。

図表 6-3-19 「自分の将来が楽しみ」について(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*)

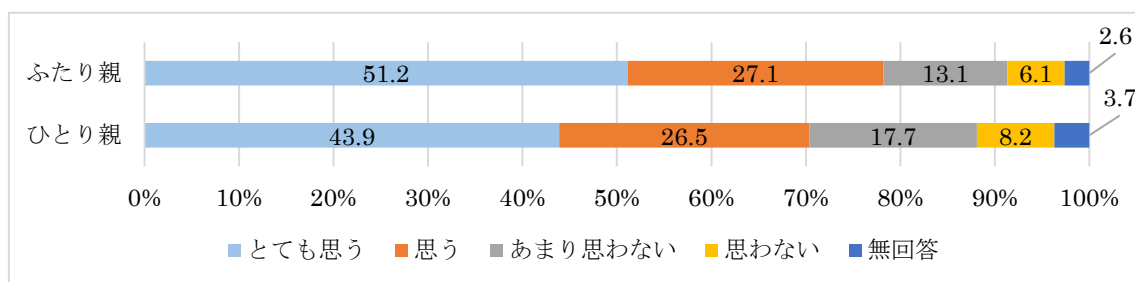


図表 6-3-20 「自分の将来が楽しみ」について(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)

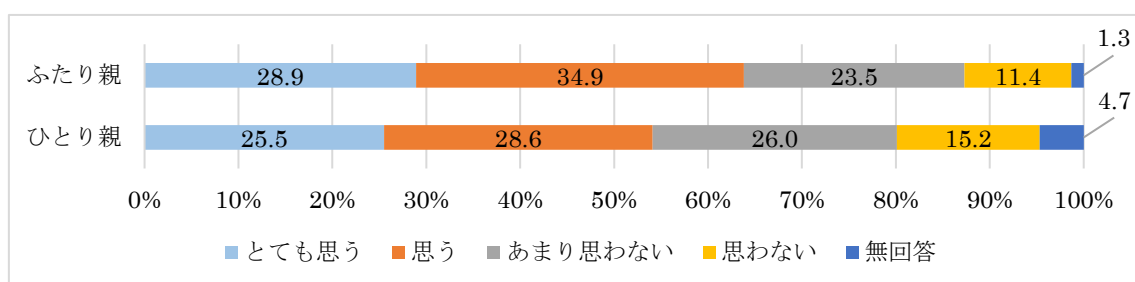


世帯タイプ別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 19.2%、ひとり親世帯では 25.9%となっており、ひとり親世帯のほうが 6.7 ポイント高くなっている。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 34.9%、ひとり親世帯では 41.2%となっており、ひとり親世帯のほうが 6.3 ポイント高くなっている。ふたり親世帯では 3 割以上、ひとり親世帯では 4 割以上の子どもが否定的な回答をしている。

図表 6-3-21 「自分の将来が楽しみ」について(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*)



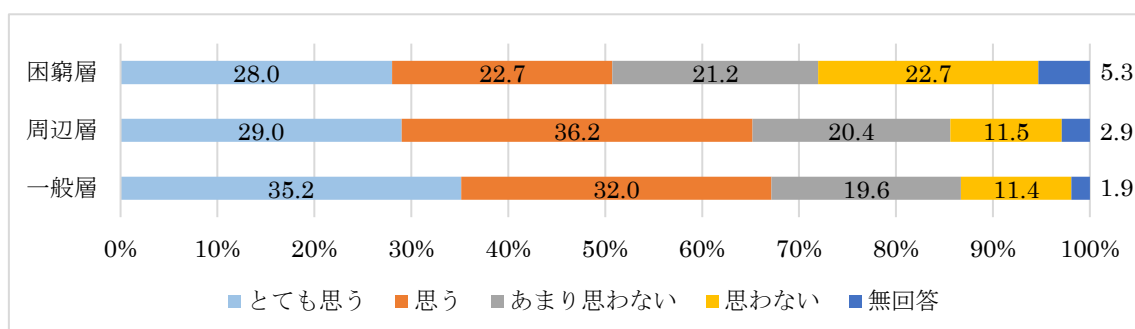
図表 6-3-22 「自分の将来が楽しみ」について(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



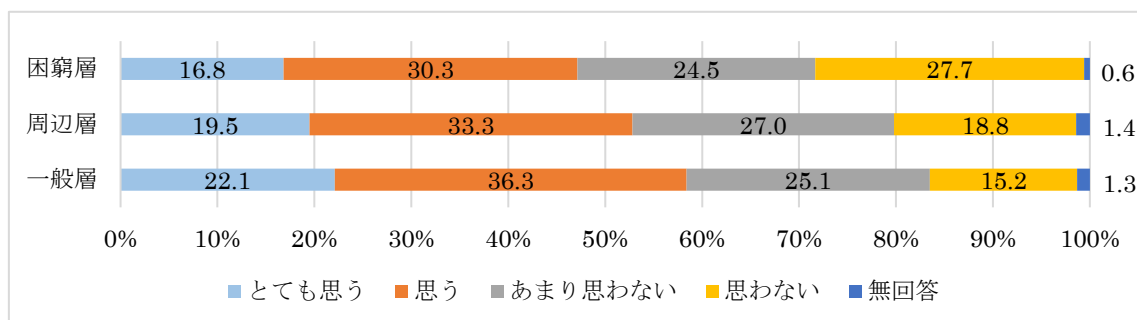
### (7)「自分のことが好き」

生活困難度別において、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層では 43.9%、周辺層では 31.9%、一般層では 31.0%であり、困窮層では一般層と比べて 12.9 ポイント高くなっている。また、周辺層、一般層においても、3 分の 1 以上の子どもが否定的な回答をしている。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、困窮層では 52.2%、周辺層では 45.8%、一般層では 40.3%となっており、困窮層は一般層に比べて 11.9 ポイント高く、困窮層では 5 割以上が否定的な回答をしている。また、周辺層、一般層においても 4 割以上が否定的な回答をしている。

図表 6-3-23 「自分のことが好き」について(小学 5 年生):生活困難度別 (\*\*\*)

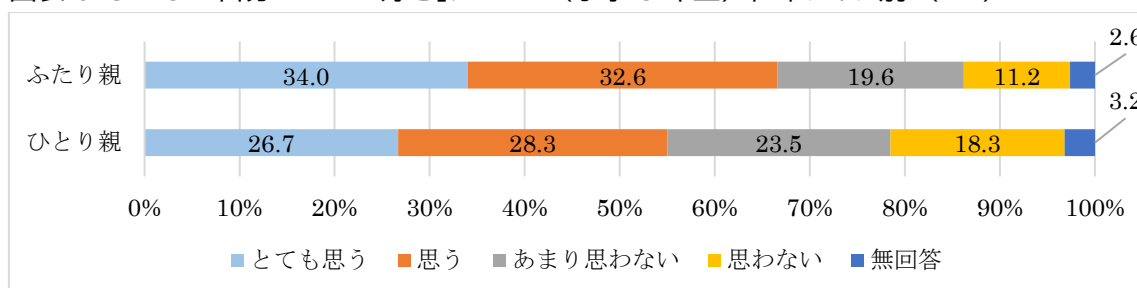


図表 6-3-24 「自分のことが好き」について(中学 2 年生):生活困難度別 (\*\*\*)

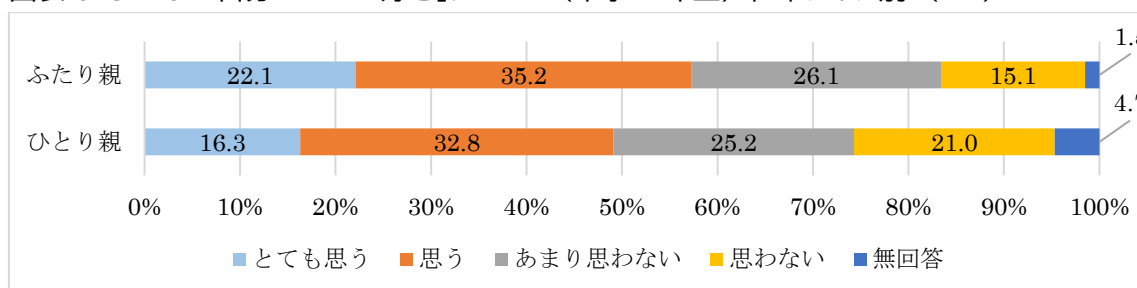


世帯タイプ別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 30.8%、ひとり親世帯では 41.8%であり、ひとり親世帯のほうが 11.0 ポイント高い。中学 2 年生では、「あまり思わない」「思わない」と答えた子どもは、ふたり親世帯では 41.2%、ひとり親世帯では 46.2%であり、ひとり親世帯のほうが 5.0 ポイント高くなっている。

図表 6-3-25 「自分のことが好き」について(小学 5 年生):世帯タイプ別 (\*\*\*)



図表 6-3-26 「自分のことが好き」について(中学 2 年生):世帯タイプ別 (\*\*\*)



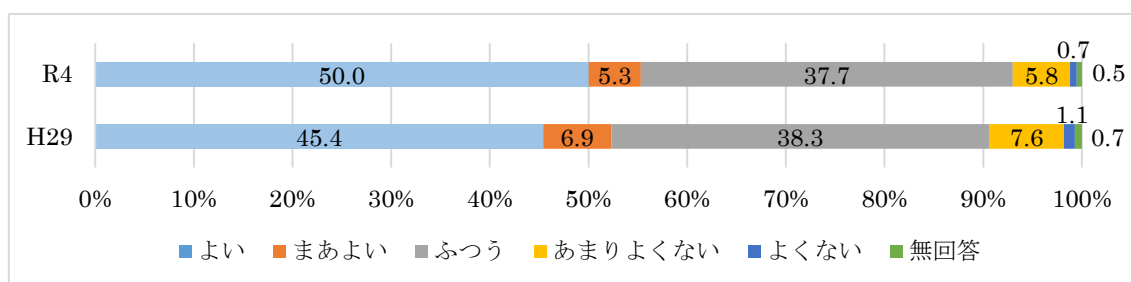
#### 4. 保護者の健康状態

次に、保護者の健康状態について、保護者票の問 12「あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。」の項目のうち、問 12-1「あなた(回答者)」の健康状態について「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「よくない」の 5 段階を選択肢とした設問の回答を用いて集計した。その結果によると、小学 5 年生の保護者の 55.3%は、健康状態が「よい」「まあよい」としているが、6.5%の保護者が健康状態は「あまりよくない」「よくない」と答えている。

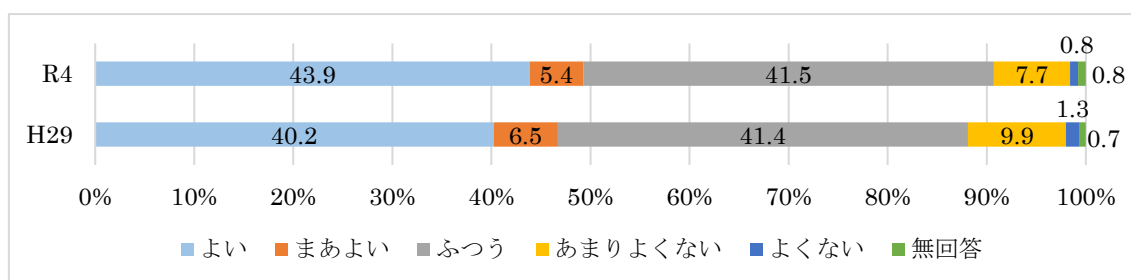
また、中学 2 年生の保護者の 49.3%健康状態が「よい」「まあよい」と回答しているが、8.5%が健康状態は「あまりよくない」「よくない」と答えている。

前回調査(H29)では、小学 5 年生の保護者では、健康状態が「よい」「まあよい」と答えた人が 52.3%、「あまりよくない」「よくない」と答えた人が 8.7%であった。中学 2 年生の保護者では、健康状態が「よい」「まあよい」と答えた人が 46.7%、「あまりよくない」「よくない」と答えた人が 11.2%であった。

図表 6-4-1 保護者の健康状態(小学 5 年生):全体



図表 6-4-2 保護者の健康状態(中学 2 年生):全体

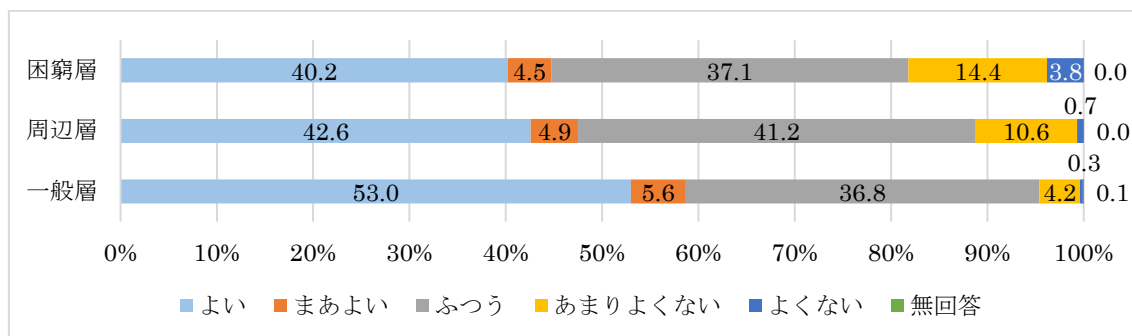


小学 5 年生の保護者では、生活困難度によって、統計的に有意な差が見られた。一般層の 53.0%は、健康状態が「よい」と回答している一方で、周辺層では 42.6%、困窮層では 40.2%が「よい」と回答しており、一般層に比べて困窮層は 12.8 ポイント低くなっている。また、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した保護者の割合は、一般層では 4.5%であるのに対し、周辺層では 11.3%、困窮層では 18.2%であり、一般層と比較して困窮層は 13.7 ポイント高くなっている。

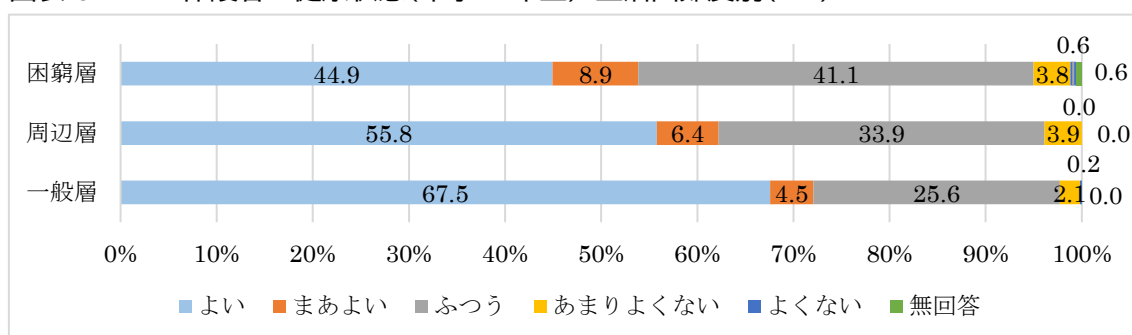
中学 2 年生の保護者においても、生活困難度によって、統計的に有意な差が見られた。一般層の 67.5%が健康状態が「よい」と回答しているが、周辺層では 55.8%、困窮層では 44.9%が「よい」と回答しており、一般層に比べて困窮層は 22.6 ポイント低くなっている。また、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した保護者の割合は、一般層で 2.3%であるのに対し、周辺層で 3.9%、困窮層で 4.4%であり、一般層と比較して困窮層は 2.1 ポイント高くなっている。



図表 6-4-3 保護者の健康状態(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



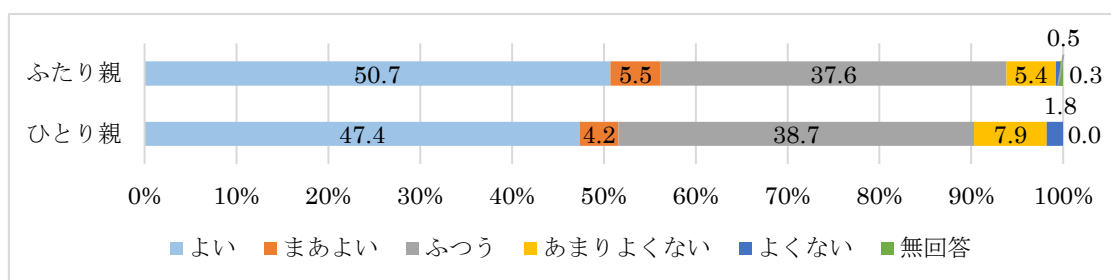
図表 6-4-4 保護者の健康状態(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



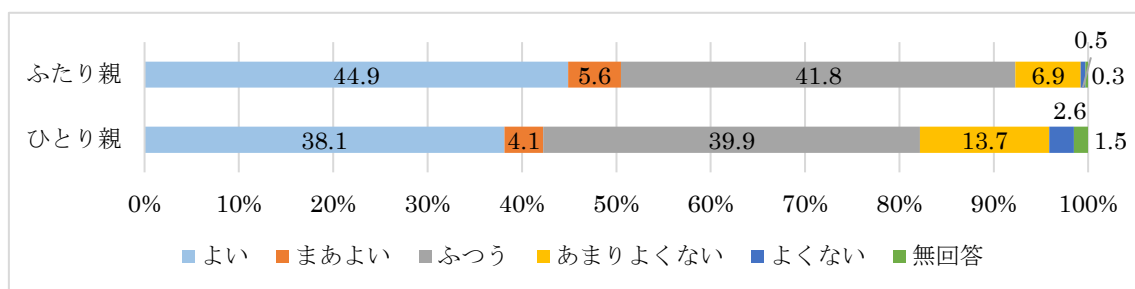
小学 5 年生では、世帯タイプにおいて、統計的に有意な差が見られた。世帯タイプ別では、ふたり親世帯の 50.7%の保護者が健康状態が「よい」と回答したのと比較して、ひとり親世帯の保護者では健康状態が「よい」と回答した割合が 47.4%となっており、3.3 ポイントの差がある。また、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した保護者の割合は、ふたり親世帯では 5.9%であるのに対し、ひとり親世帯では 9.7%となっており、ふたり親世帯と比較してひとり親世帯は 3.8 ポイント高くなっている。

中学 2 年生では、世帯タイプにおいて、統計的に有意な差が見られた。世帯タイプ別では、ふたり親世帯の 44.9%の保護者は、健康状態が「よい」と回答するのと比較して、ひとり親世帯の保護者では健康状態が「よい」と回答した割合が 38.1%となっており、6.8 ポイントの差がある。また、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した保護者の割合は、ふたり親世帯では 7.4%であるのに対し、ひとり親世帯では 16.3%となっており、ふたり親世帯と比較してひとり親世帯は 8.9 ポイント高くなっている。

図表 6-4-5 保護者の健康状態(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-4-6 保護者の健康状態(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

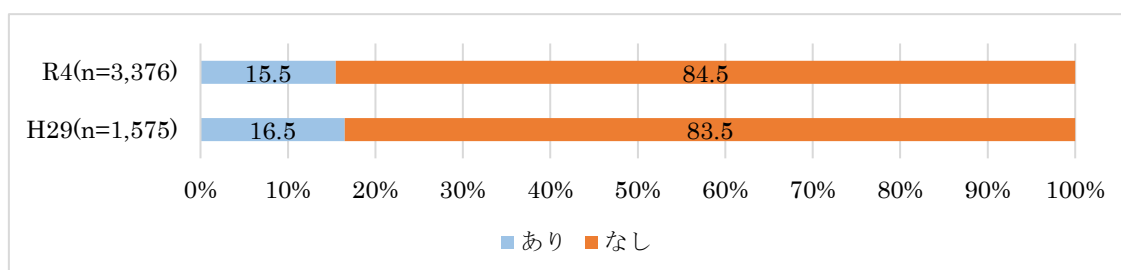


## 5. 保護者の抑うつ傾向

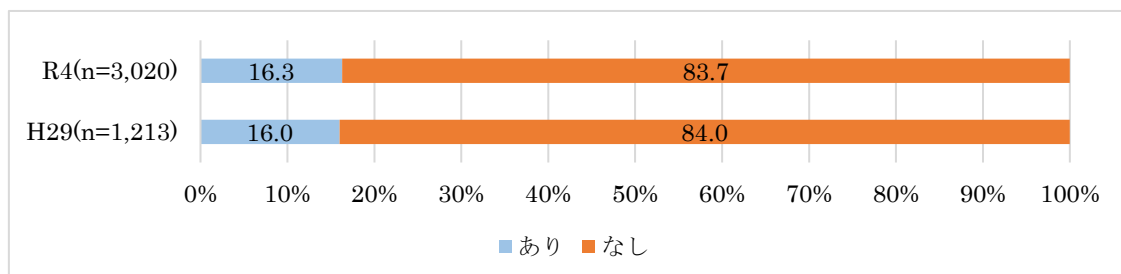
本調査では、保護者の抑うつ傾向を表す指標として K6 を利用している。K6 は、過去 30 日の間での心の状況(6 項目)を指数化し(保護者票問 16 から作成)、その合計点数によって、「心理的ストレス反応相当(5 点以上)」「気分・不安障害相当(9 点以上および 10 点以上)」「重症精神障害相当(13 点以上)」に分類される。ここでは「気分・不安障害相当(9 点以上)」を「抑うつ傾向あり」として分析を行う。また分析対象者はすべての項目を回答しているもののみとし、それ以外はすべて「無効回答」として分析から省かれている。

その結果、抑うつ傾向があると判断される保護者は小学 5 年生で 15.5%、中学 2 年生で 16.3%である。前回調査(H29)では、抑うつ傾向があると判断される保護者は小学 5 年生では 16.5%、中学 2 年生では 16.0%であった。

図表 6-5-1 保護者の抑うつ傾向(K6)(小学 5 年生):全体



図表 6-5-2 保護者の抑うつ傾向(K6)(中学 2 年生):全体

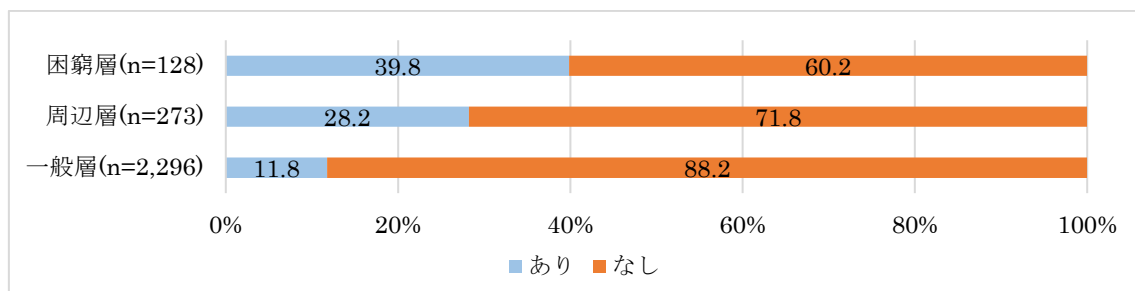


保護者の抑うつ傾向を、生活困難度別に見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。

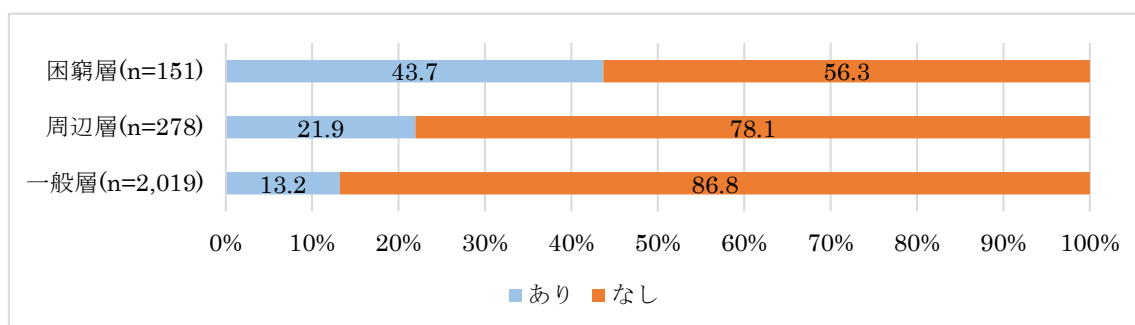
小学 5 年生の保護者では、抑うつ傾向が「あり」の割合が、一般層の 11.8%と比較して、周

辺層では 28.2%、困窮層では 39.8%となっており、一般層と比較して周辺層では 2 倍、困窮層では 3 倍以上の割合で抑うつ傾向が見られる。中学 2 年生の保護者についても、小学 5 年生の保護者と同じ傾向が見られ、抑うつ傾向が「あり」の割合が、一般層 13.2%と比較して、周辺層では 21.9%、困窮層では 43.7%となっている。小学 5 年生、中学 2 年生ともに、困窮層では 4 割以上の保護者に抑うつ傾向がある。

図表 6-5-3 保護者の抑うつ傾向「あり」(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



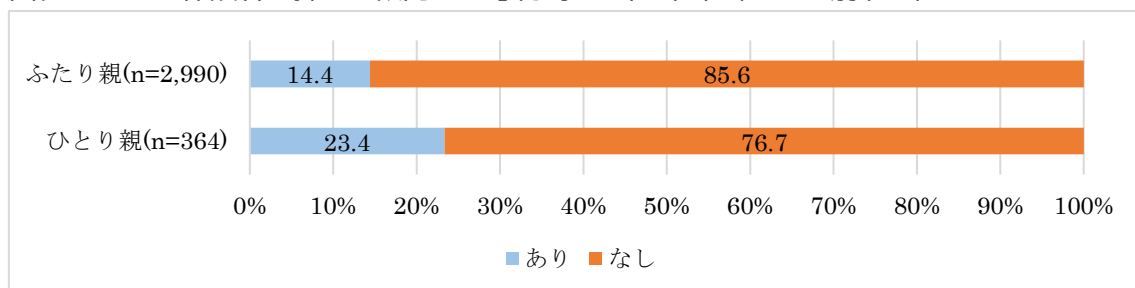
図表 6-5-4 保護者の抑うつ傾向「あり」(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



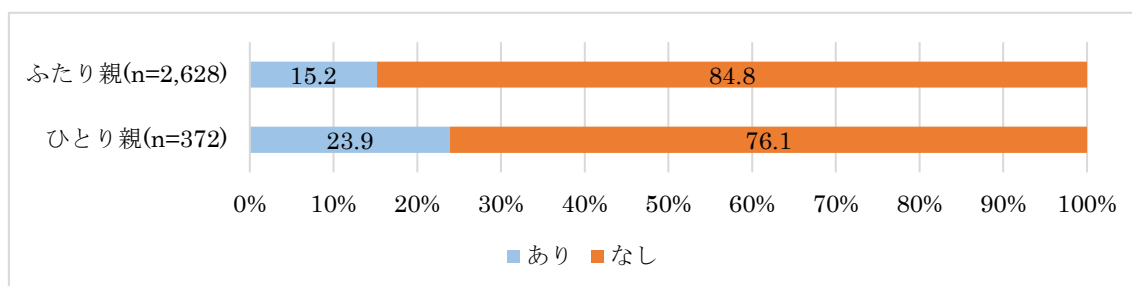
保護者の抑うつ傾向を世帯タイプ別に見たところ、小学 5 年生、中学 2 年生ともに統計的に有意な差が見られた。

小学 5 年生の保護者については、抑うつ傾向が「あり」の割合が、ふたり親世帯の 14.4%と比較して、ひとり親世帯では 23.4%となっており、ひとり親世帯ではふたり親世帯よりも 9.0 ポイント高くなっている。中学 2 年生の保護者については、抑うつ傾向が「あり」の割合が、ふたり親世帯の 15.2%と比較して、ひとり親世帯では 23.9%となっており、ひとり親世帯ではふたり親世帯よりも 8.7 ポイント高くなっている。

図表 6-5-5 保護者の抑うつ傾向「あり」(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-5-6 保護者の抑うつ傾向「あり」(中学 2 年生):世帯タイプ別 (\*\*\*)



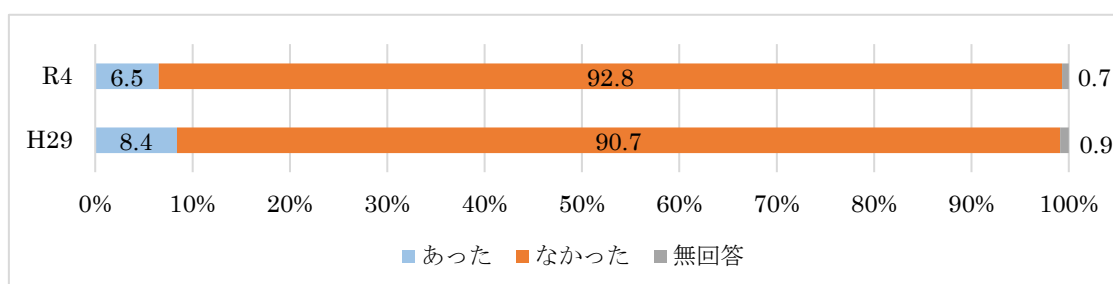
## 6. 医療サービス

### (1) 医療サービスの受診抑制

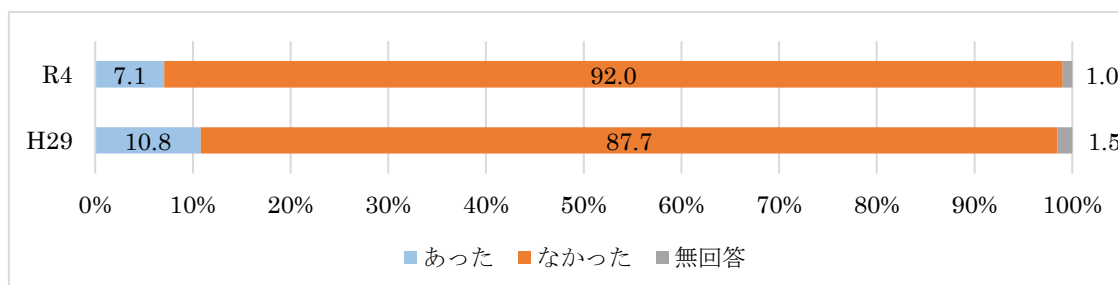
次に、医療サービスの受診状況について確認する。保護者票問 13「過去1年間に、お子さんを医療機関に受診させた方がよいと思っただが、実際には受診させなかったことがありますか」の設問に対して、小学 5 年生では 6.5%、中学 2 年生では 7.1%の保護者が「(受診させなかったことが)あった」と答えている。

前回調査(H29)では、小学 5 年生では 8.4%、中学 2 年生では 10.8%の保護者が「(受診させてなかったことが)あった」と答えていた。

図表 6-6-1 医療サービスの受診抑制が「あった」割合(小学 5 年生):全体



図表 6-6-2 医療サービスの受診抑制が「あった」割合(中学 2 年生):全体

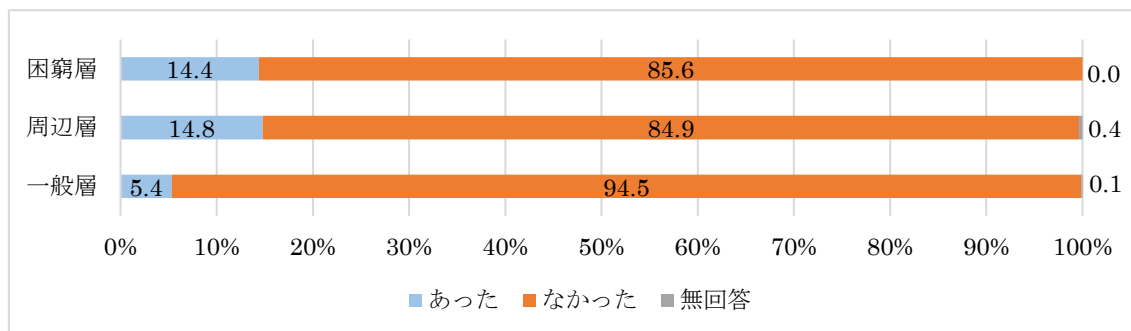


生活困難度別の医療サービスの受診抑制の有無を見たところ、小学 5 年生、中学 2 年生の保護者ともに統計的に有意な差が見られた。

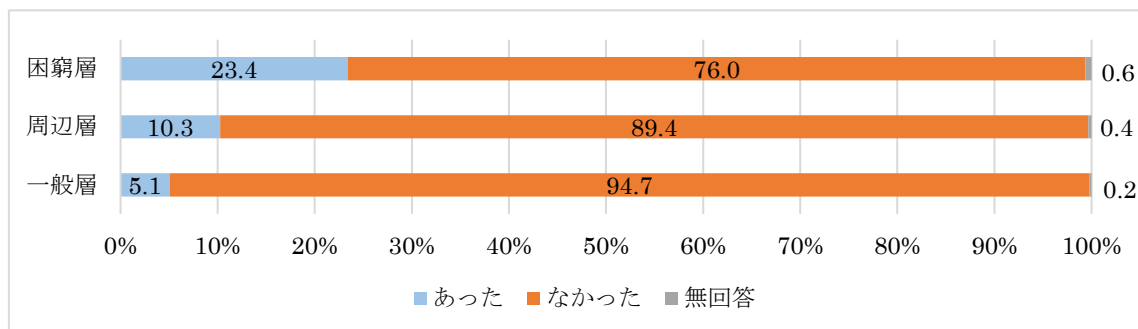
小学生 5 年生の保護者では、医療サービスの受診抑制が「あった」と回答した割合が困窮層 14.4%、周辺層 14.8%であり、一般層の 5.4%と比べて、それぞれ 9.0 ポイント、9.4 ポイント高くなっている。

中学 2 年生の保護者では、医療サービスの受診抑制が「あった」と回答した割合が困窮層 23.4%、周辺層 10.3%であり、一般層の 5.1%と比べて、それぞれ 18.3 ポイント、5.2 ポイント高くなっている。

図表 6-6-3 医療サービスの受診抑制が「あった」割合(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 6-6-4 医療サービスの受診抑制が「あった」割合(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)

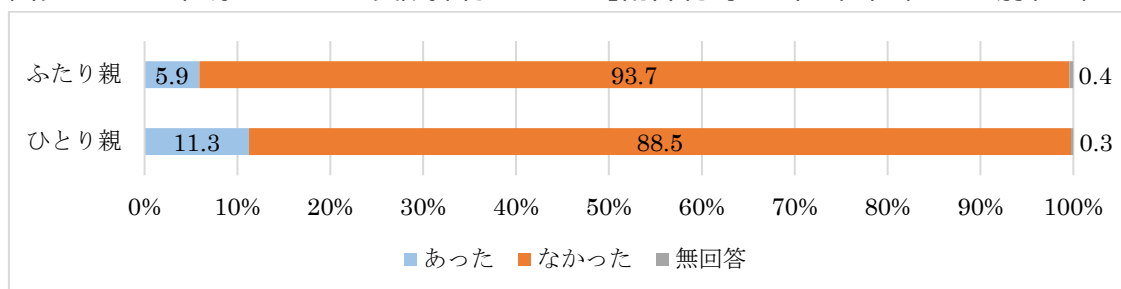


世帯タイプ別に医療サービスの受診抑制の有無を見たところ、小学 5 年生、中学 2 年生の保護者ともに統計的に有意な差が見られた。

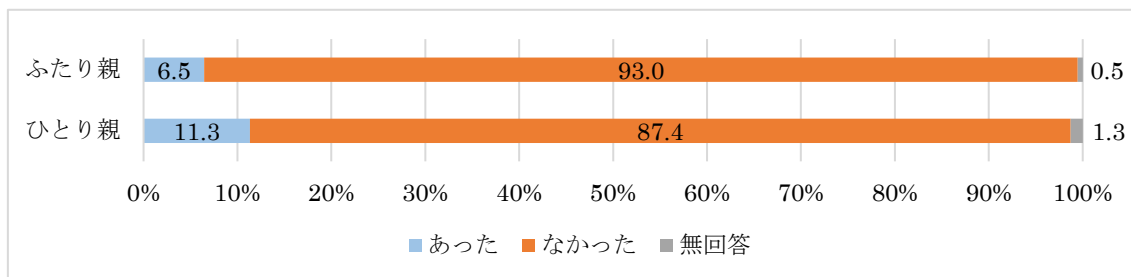
小学 5 年生の保護者については、医療サービスの受診抑制が「あった」と回答した割合が、ひとり親世帯の 11.3%と比較して、ふたり親世帯では 5.9%となっており、ひとり親世帯の方が 5.4 ポイント高くなっている。

中学 2 年生の保護者については、医療サービスの受診抑制が「あった」と回答した割合がひとり親世帯の 11.3%と比較して、ふたり親世帯では 6.5%となっており、ひとり親世帯の方が 4.8 ポイント高くなっている。

図表 6-6-5 医療サービスの受診抑制が「あった」割合(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-6-6 医療サービスの受診抑制が「あった」割合(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

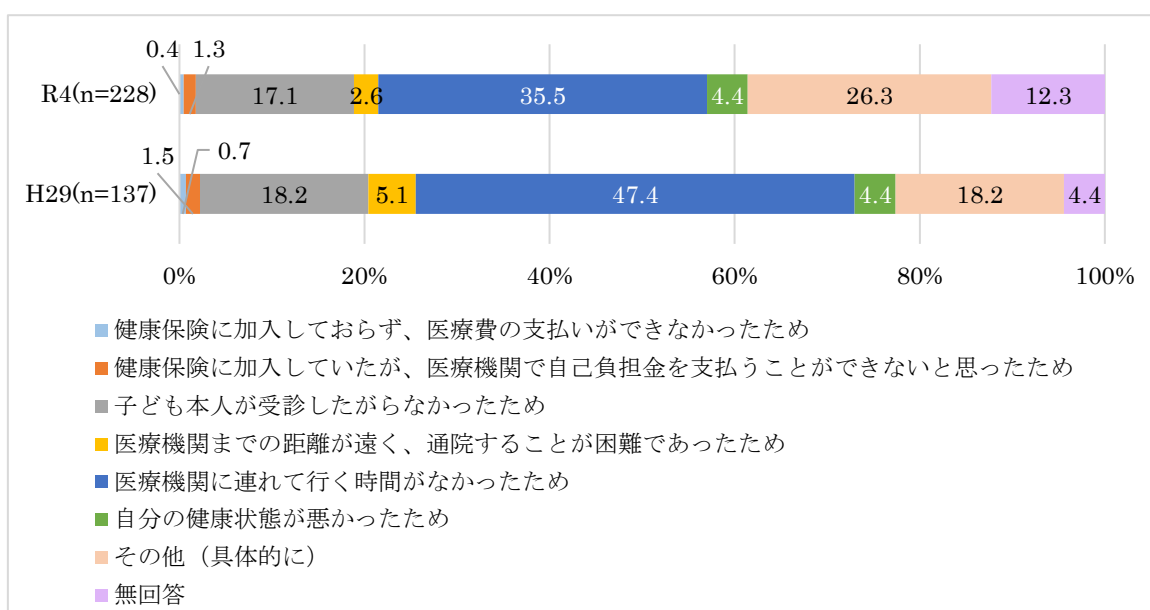


## (2)医療サービスの受診抑制の理由

受診抑制があったと答えた保護者に、さらに問 13-1 にて、受診抑制があった理由を聞いたところ、小学 5 年生の保護者では、「医療機関に連れて行く時間がなかったため」(35.5%)、「子ども本人が受診しなかったため」(17.1%)、「自分の健康状態が悪かったため」(4.4%)、「医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため」(2.6%)の順に回答が多かった。金銭的な理由(「健康保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」および「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」)は比較的になく、それぞれ 0.4%、1.3%となっている。

前回調査(H29)では、回答の多い順に、「医療機関に連れて行く時間がなかったため」(47.4%)、「子ども本人が受診しなかったため」(18.2%)、「医療機関が遠く通院が困難であったため」(5.1%)、「自分の健康状態が悪かったため」(4.4%)、「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を払うことができないと思ったため」(1.5%)、「健康保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」(0.7%)であった。

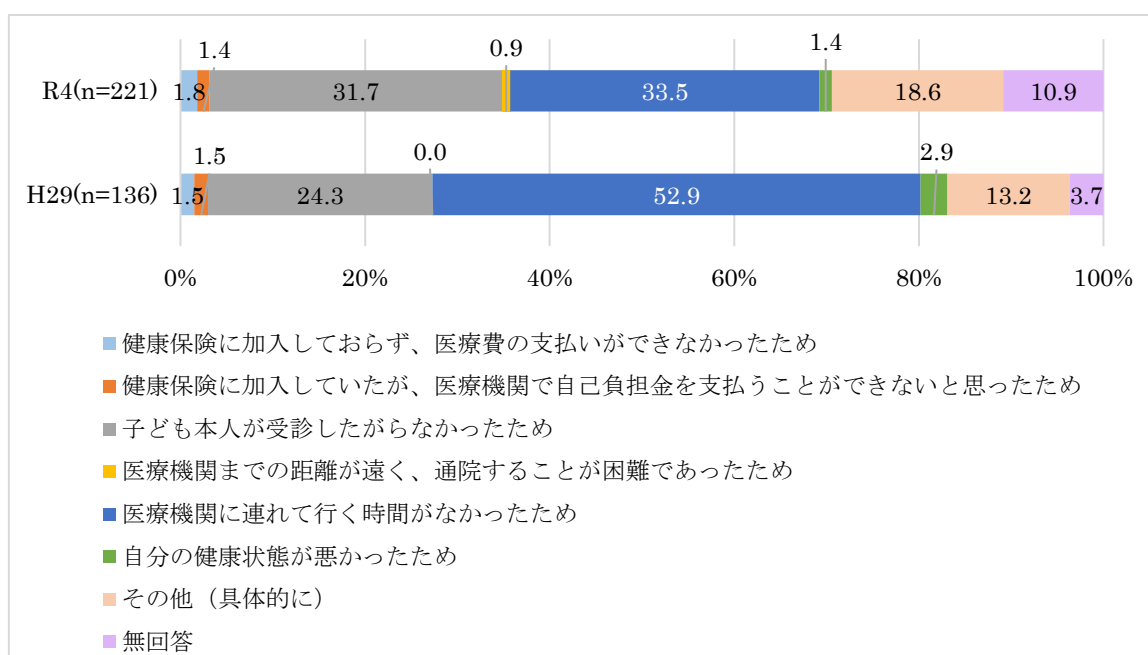
図表 6-6-7 医療サービスの受診抑制が「あった」理由(小学 5 年生):全体



中学 2 年生の保護者では、「医療機関に連れて行く時間がなかったため」(33.5%)、「子ども本人が受診しなかったため」(31.7%)、「自分の健康状態が悪かったため」(1.4%)、「医療機関が遠く通院が困難であったため」(0.9%)の順に回答が多かった。金銭的な理由(「健康保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」および「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」)は比較的に少なく、それぞれ 1.8%、1.4%となっている。

前回調査(H29)では、回答の多い順に、「医療機関に連れて行く時間がなかったため」(52.9%)、「子ども本人が受診しなかったため」(24.3%)、「自分の健康状態が悪かったため」(2.9%)、「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を払うことができないと思ったため」(1.5%)、「健康保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」(1.5%)であった。

図表 6-6-8 医療サービスの受診抑制が「あった」理由(中学 2 年生):全体

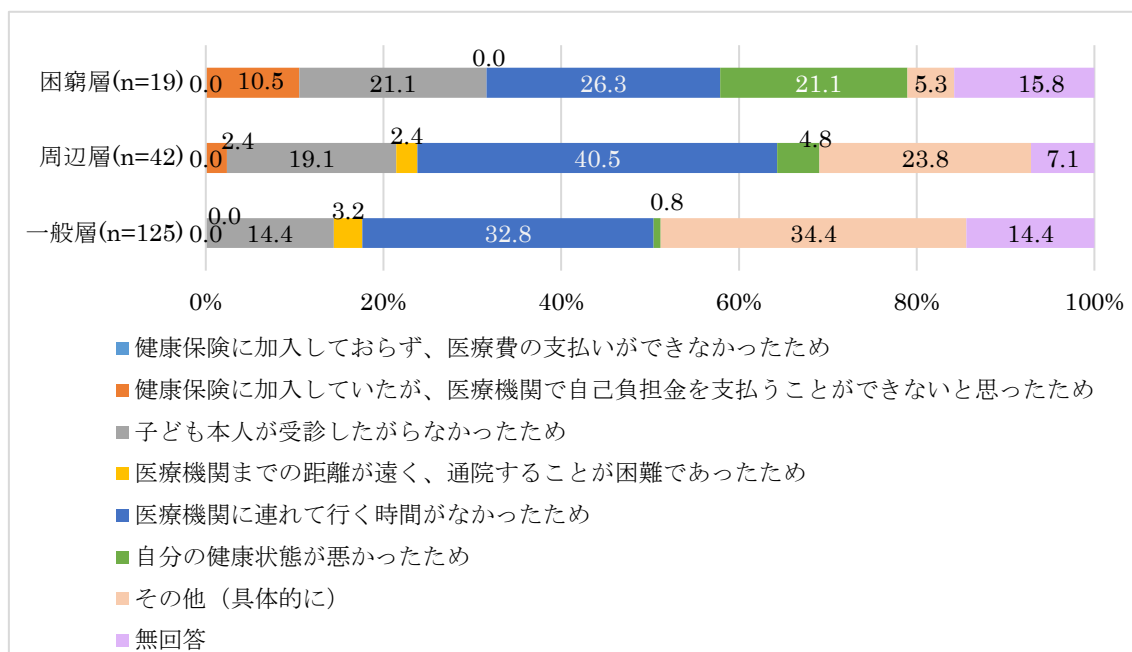


生活困難度別に医療サービスの受診抑制の理由を見たところ、小学 5 年生、中学 2 年生の保護者ともに、統計的に有意な差が見られた。

小学 5 年生の保護者では、小学 5 年生全体の回答でもっとも割合が高かった「医療機関に連れて行く時間がなかったため」は、困窮層では 26.3%、周辺層では 40.5%、一般層では 32.8%であり、周辺層がもっとも高かった。一方で、「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を払うことができないと思ったため」は、困窮層では 10.5%、周辺層では 2.4%、一般層では 0.0%であり、困窮層では金銭的な理由を挙げる割合が高い。また、「自分の健康状態が悪かったため」も、困窮層では 21.1%、周辺層では 4.8%、一般層では 0.8%と、困窮層では一般層に比べて 20.3 ポイント高くなっている。

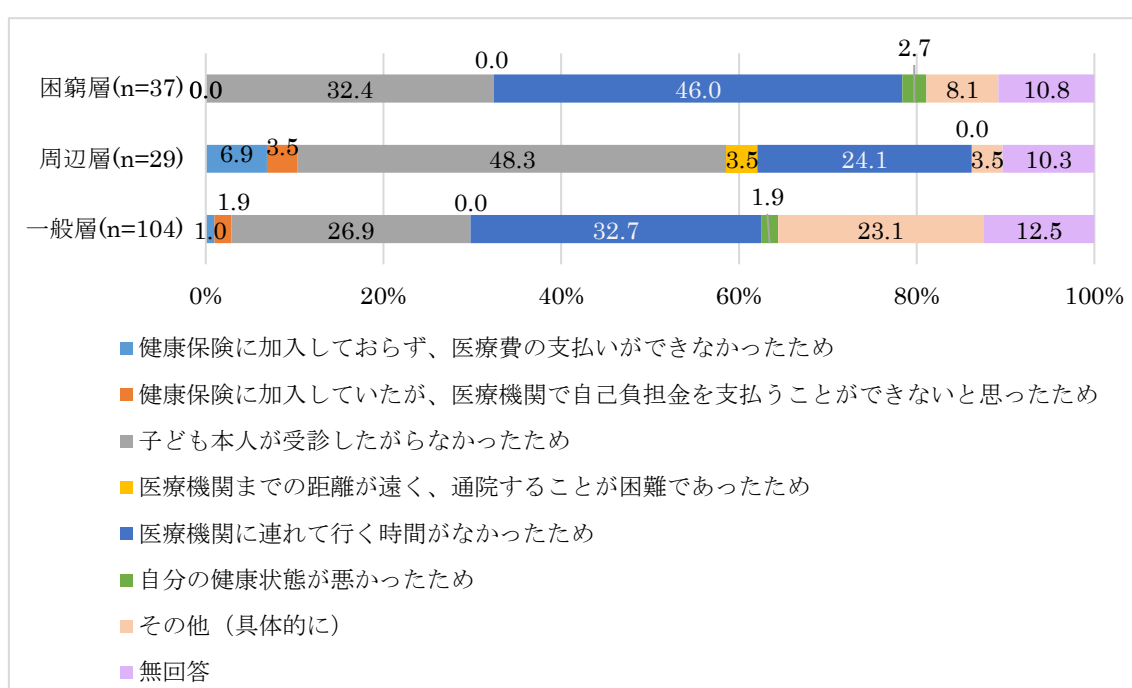


図表 6-6-9 医療サービスの受診抑制が「あった」理由(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



中学 2 年生の保護者では、中学 2 年生全体の回答でもっとも割合が高かった「医療機関に連れて行く時間がなかったため」は、困窮層では 46.0%、周辺層では 24.1%、一般層では 32.7%であり、困窮層がもっとも高かった。一方で、「健康保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」と「健康保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を払うことができないと思ったため」は周辺層でもっとも高く、それぞれ、6.9%、3.5%である。

図表 6-6-10 医療サービスの受診抑制が「あった」理由(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



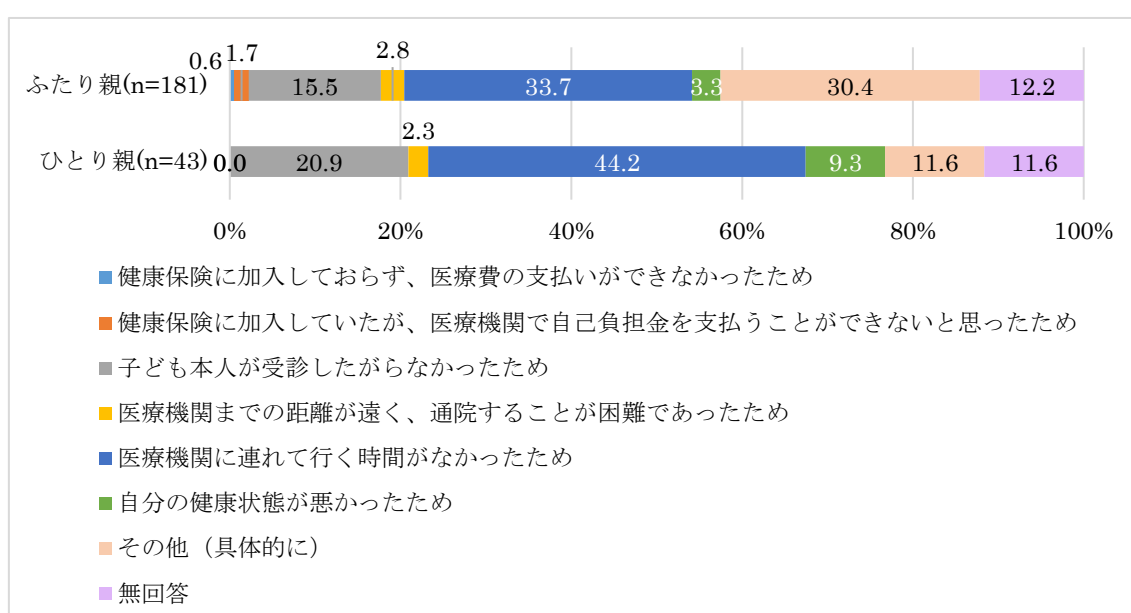


世帯タイプ別に医療サービスの受診抑制の理由を見たところ、小学5年生、中学2年生の保護者ともに医療サービスの受診抑制の理由において、統計的に有意な差が見られた。

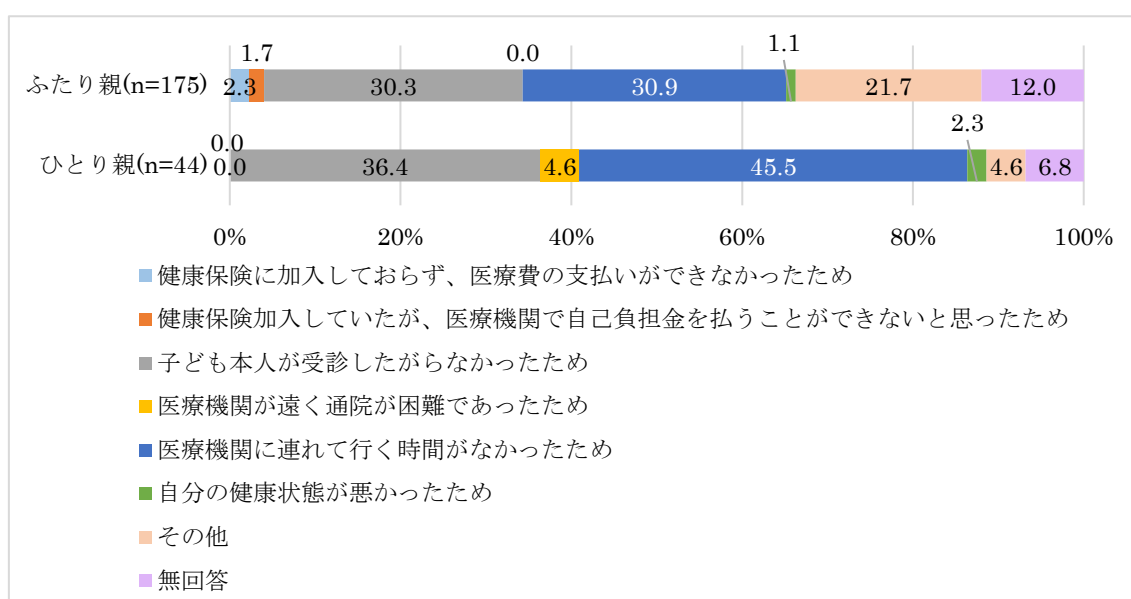
小学5年生の保護者では、小学5年生全体の回答でもっとも割合が高かった「医療機関に連れて行く時間がなかったため」は、ひとり親世帯では44.2%となっており、ふたり親世帯の33.7%と比較して、ひとり親世帯は10.5ポイント高かった。

中学2年生の保護者では、中学2年生全体の回答でもっとも割合が高かった「医療機関に連れて行く時間がなかったため」は、ひとり親世帯では45.5%となっており、ふたり親世帯の30.9%と比較して、ひとり親世帯は14.6ポイント高かった。

図表 6-6-11 医療サービスの受診抑制が「あった」理由(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-6-12 医療サービスの受診抑制が「あった」理由(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



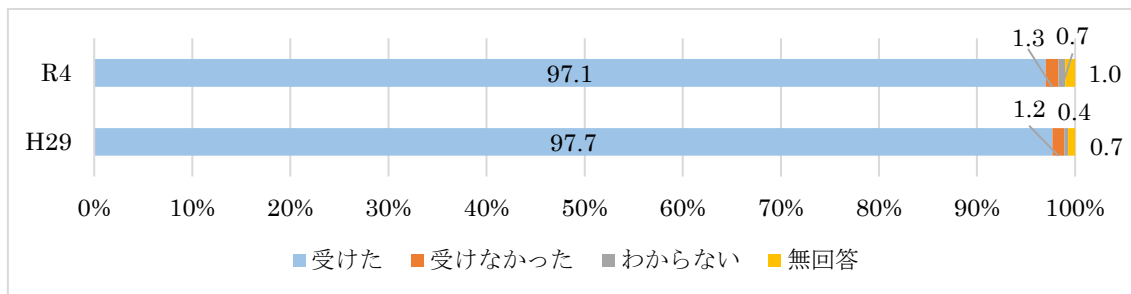
### (3) 定期予防接種

次に、定期予防接種（結核、麻しん・風しん、ポリオなど）の受診状況を見る。本調査では、保護者票の問 15「お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください」の設問において、「定期予防接種 ※結核(BCG)、麻しん・風しん、ポリオなど、無料で受けられる」について「受けた」「受けなかった」「わからない」の3つの選択肢で聞いている。

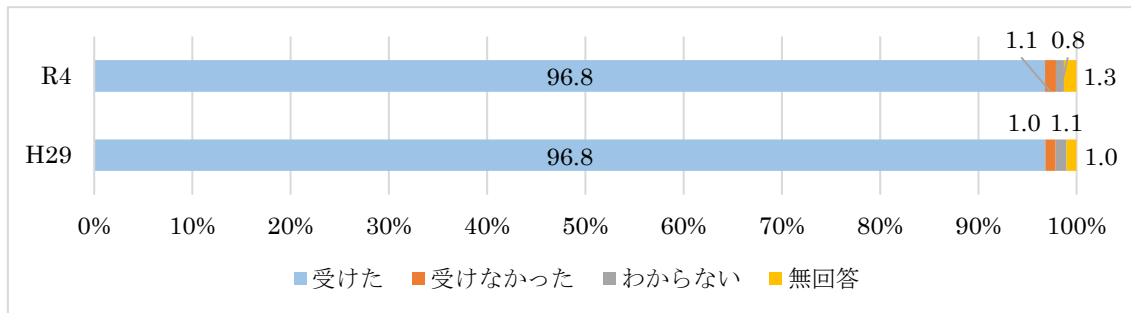
この回答を見ると、定期予防接種を「受けなかった」と回答した割合が、小学5年生の保護者では1.3%、中学2年生の保護者では1.1%となっている。

前回調査(H29)では、定期予防接種を「受けなかった」と回答したのが、小学5年生の保護者では1.2%、中学2年生の保護者は1.0%であった。

図表 6-6-13 定期予防接種の受診状況(小学5年生):全体



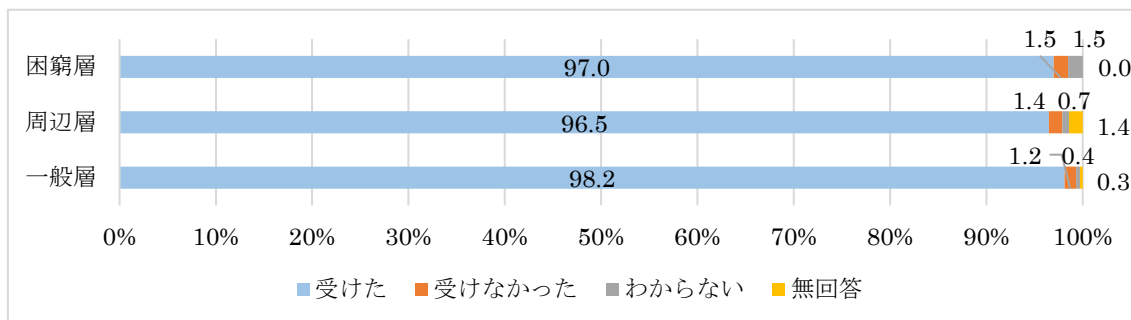
図表 6-6-14 定期予防接種の受診状況(中学2年生):全体



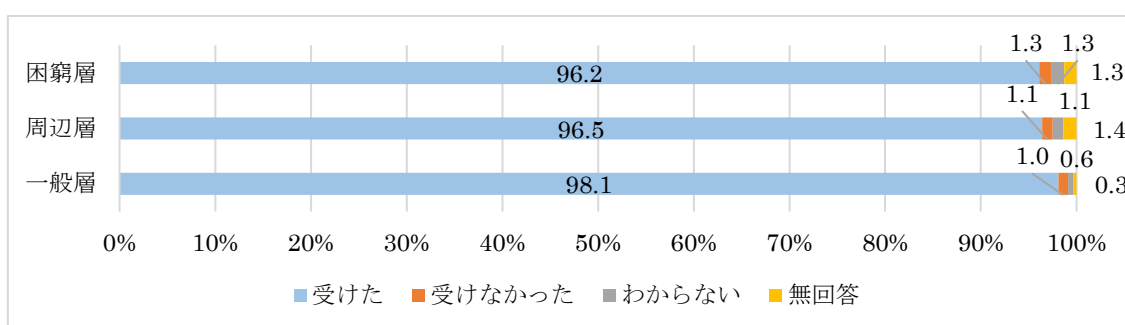
生活困難度別に定期予防接種の受診状況について見たところ、小学5年生の保護者では統計的に有意な差が見られたが、中学2年生の保護者では見られなかった。

小学5年生の保護者では、定期予防接種を「受けなかった」と回答した割合が困窮層1.5%、周辺層1.4%、一般層1.2%であり、一般層と比較すると困窮層は0.3ポイント高い。

図表 6-6-15 定期予防接種の受診状況(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*)



図表 6-6-16 定期予防接種の受診状況(中学 2 年生):生活困難度別(X)

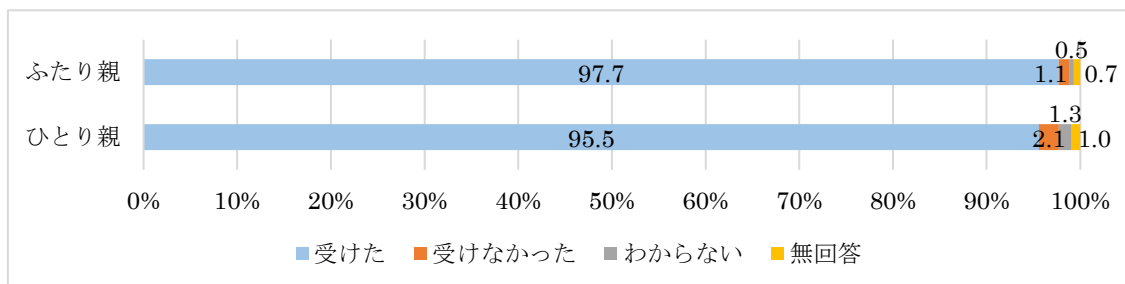


世帯タイプ別に定期予防接種の受診状況を見たところ、小学 5 年生、中学 2 年生の保護者ともに統計的に有意な差が見られた。

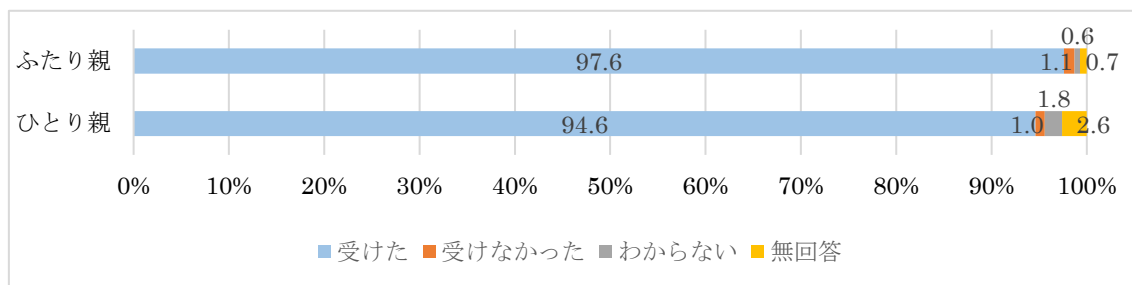
小学 5 年生の保護者では、定期予防接種を「受けなかった」もしくは「わからない」と回答した割合がひとり親世帯では 3.4%、ふたり親世帯では 1.6%であり、ふたり親世帯と比較してひとり親世帯は 1.8 ポイント高い。

中学 2 年生の保護者では、定期予防接種を「受けなかった」もしくは「わからない」と回答した割合がひとり親世帯では 2.8%、ふたり親世帯では 1.7%であり、ふたり親世帯と比較してひとり親世帯は 1.1 ポイント高い。

図表 6-6-17 定期予防接種の接種状況(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*)



図表 6-6-18 定期予防接種の受診状況(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

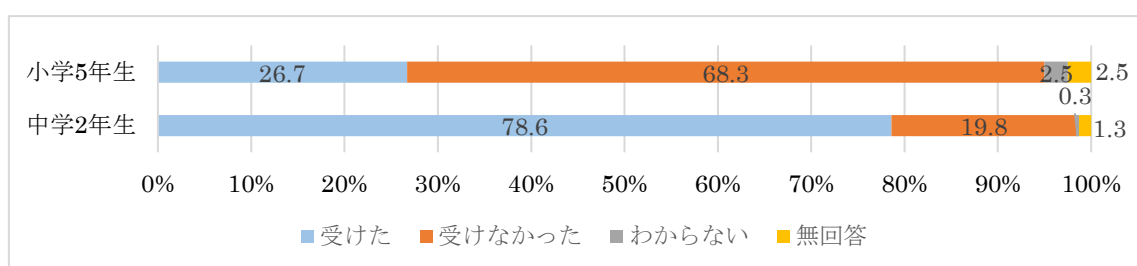


#### (4)新型コロナウイルスワクチン接種

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種状況を見る。本調査では、保護者票の間 15「お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください。」との設問にて、「新型コロナウイルスワクチン接種」について「受けた」「受けなかった」「わからない」の 3 つの選択肢で聞いている。

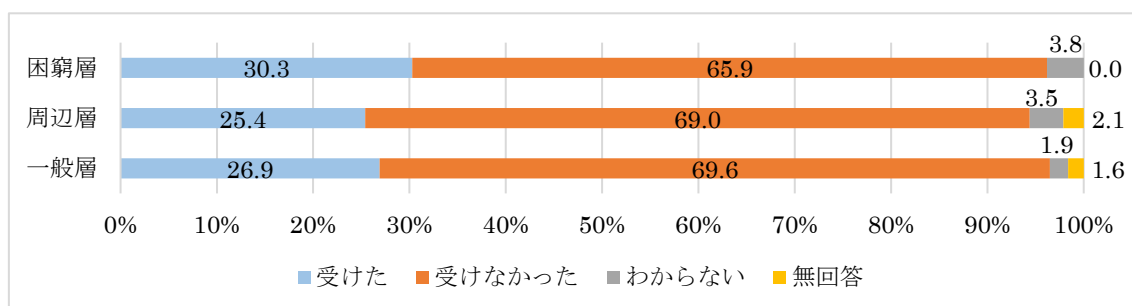
この回答を見ると、新型コロナウイルスワクチンを、「受けなかった」と回答をしたのが小学 5 年生の保護者では 68.3%、中学 2 年生の保護者では 19.8%となっている。

図表 6-6-19 新型コロナウイルスワクチンの接種状況(小学 5 年生、中学 2 年生):全体

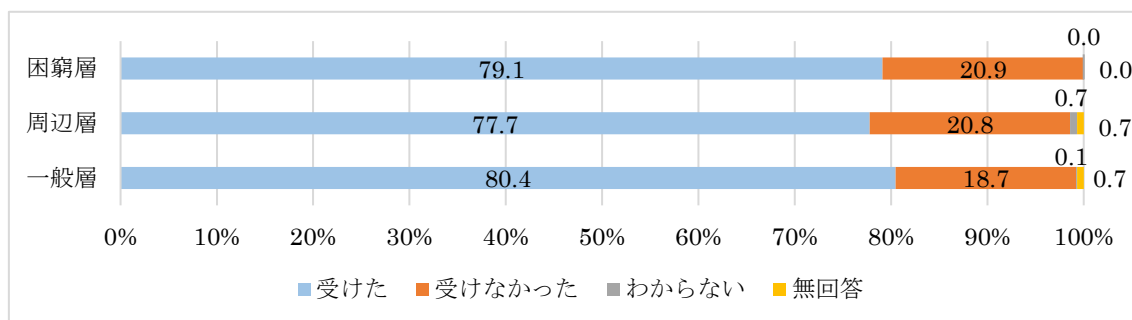


生活困難度別に新型コロナウイルスワクチン接種の受診状況を見たところ、小学 5 年生、中学 2 年生の保護者ともに、統計的に有意な差は見られなかった。

図表 6-6-20 新型コロナウイルスワクチン接種の受診状況(小学 5 年生):生活困難度別(x)



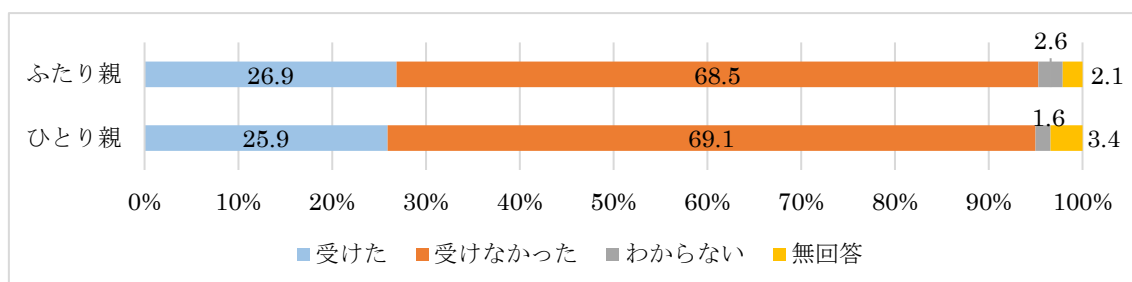
図表 6-6-21 新型コロナウイルスワクチン接種の受診状況(中学 2 年生):生活困難度別(X)



世帯タイプ別に新型コロナウイルスワクチン接種の受診状況について見たところ、小学 5 年生の保護者では統計的に有意な差が見られなかったが、中学 2 年生の保護者では統計的に有意な差が見られた。

中学 2 年生の保護者では、新型コロナウイルスワクチン接種を「受けなかった」と回答した割合がひとり親世帯では 24.2%、ふたり親世帯では 19.2%であり、ふたり親世帯と比較してひとり親世帯は 5.0 ポイント高い。

図表 6-6-22 新型コロナウイルスワクチン接種の受診状況(小学 5 年生):世帯タイプ別(X)



図表 6-6-23 新型コロナウイルスワクチン接種の受診状況(中学 2 年生):世帯タイプ別 (\*\*\*)

